

## 問題1

ここは岡崎城内坂谷邸。天文11年(1542)12月26日、寅の刻、後の徳川家康公が生まれました。天守閣に隣接する龍城神社の記録に、生誕伝説として記されているのはどのようなことでしょうか？

- (1) 岡崎城下に寅(虎)の雄叫びが響き渡った。
- (2) 岡崎城の上空を、井戸から立ち昇った金の龍が舞った。
- (3) 開運を招く五色の雲が天空にたなびいた。
- (4) 極彩色の鳳凰が、岡崎城の天守から飛び立った。

## 解説

「この英雄児の生まれ出づるを待つが如く、城楼の上に雲を呼び風を招く金鱗の龍を見たりと云う」—龍城神社社記より。

家康公生誕にかかわる伝説の一つです。岡崎城はもともと「龍頭山」に築城され、別名「龍ヶ城」とも呼ばれて龍に関係の深い城でした。龍城神社の西側には伝説の井戸「龍ヶ井」があり、ここから金鱗の龍が立ち昇ったと伝えられています。一度訪れてみたらいかがでしょうか。



龍ヶ井(岡崎城龍城神社)

## 問題2

天文11年(1542)12月26日、寅の刻、家康公生誕のその時、母於大が祈りを捧げた三河国鳳来寺薬師堂から何かが消え、75年後、家康公が亡くなると元に戻ったと伝わるものは何でしょうか？

- (1) 創建の文武天皇直筆の經典
- (2) 日本武尊ゆかりの草薙劍
- (3) ご本尊の薬師如来像
- (4) 寅年の守護神真達羅大将の像

## 解説

前問に続いてもう一つ有名な家康公生誕伝説です。家康公の実母である於大の方は薬師如来への信仰心が篤く、男子出生のお礼に持仏の薬師如来銅像を岡崎市岩津町の円福寺に寄進したという記録も残されています。『鳳来寺略縁起』によれば、家康公の父 広忠と於大は鳳来寺山薬師堂に男子出産祈願のために参籠したとあり、続いて問題文の伝説が記されています。戦乱に明け暮れる時代の人々が強い大将の出現を願った様子がよく伝わってきます。



真達羅大将(鳳来寺薬師堂/新城市)

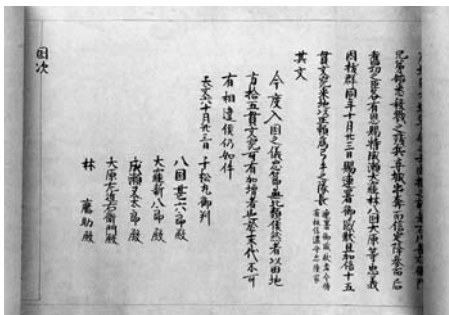
## 問題3

三河国岡崎城主の松平家の長男として生まれた家康公ですが、駿河の今川義元の支援を受けて松平家の八代目の当主を継いだ父はだれでしょうか？

- (1) 親忠 (2) 信忠  
(3) 広忠 (4) 元忠

## 解説

松平清康の嫡子 広忠は、清康が25歳という若さで命を落としたため(守山崩れ)、わずか10歳でその跡を継ぐことになりました。しかし、もともと清康と対立をしていた安城 桜井の松平信定によって岡崎城を追われ、2年もの間、伊勢国や駿河国などを流浪します。その間、岡崎城で広忠を迎え入れようとする大久保忠俊らの活躍もあり、駿河国の今川義元の支援を受けて岡崎城に復帰することができました。広忠は八代目当主として松平一門の統一を図りますが、やがて織田信秀によって拠点の一つである安城城を奪われてしまうこととなります。



広忠岡崎城帰還の感謝状「千松丸判物」  
(信光明寺／岡崎市)

## 問題4

松平氏発祥の地、三河国加茂郡松平郷は現在の何市でしょうか？

- (1) 安城市 (2) 岡崎市  
(3) 刈谷市 (4) 豊田市

## 解説

家康公の先祖である松平親氏は時宗の遊行僧であったと伝わります。名を徳阿弥と称していましたが、その先祖は新田氏の一族である世良田徳川氏であるとされています。足利将軍家との争いに敗れた後、藤沢の遊行寺に逃れて修行を行い、行脚の旅に出ました。徳阿弥はやがて大浜(碧南市)の称名寺に逗留、さらには矢作(岡崎市)の光明寺にもその足跡を残しました。ここには、遺言により親氏の位牌(岡崎市指定文化財)が残されています。そして最後には加茂郡(豊田市)の松平郷に逗留し、支配者である松平太郎左衛門の養子となって松平親氏と名乗るようになりました。



松平親氏像(豊田市松平町)

## 問題5

天文11年(1542)、家康公生誕のころの岡崎松平家の様子について、正しいものはどれでしょうか？

- (1) 刈谷の水野氏との対立が激化し、松平一門は次々と降伏していた。
- (2) その年の夏に岡崎領内の小豆坂で今川と織田の合戦が起きるなど、危機的な状況にあった。
- (3) 東の今川家、西の織田家の均衡のなかで安定した状況にあった。
- (4) 三河の平定を終え、今川氏とともに織田領の尾張に侵攻していた。

## 解説

織田氏に安城城を奪われると、矢作川流域の松平一族は織田方と今川方にわかれて争う様相を呈してきます。当主である岡崎の広忠にとっては岡崎城を攻められる危機が迫ってきました。天文11年(1542)8月、今川義元は織田信秀の岡崎侵攻を阻むため兵を發し、第一次小豆坂の合戦が起きたのです。もともと織田氏と今川氏の争いはかなり古くからあったのですが、今回はそれが岡崎城の目の前で起きました。そしてこの年の12月、岡崎にとって危機的な状況の中で家康公は誕生したのです。



小豆坂合戦「馬洗い池」(岡崎市)

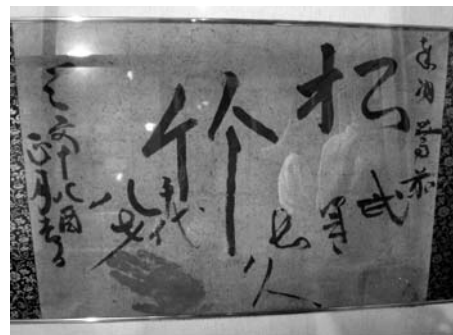
## 問題6

家康公には、父や祖父と同じ幼名が付けられ、この名は徳川将軍家の嫡男(世子)の幼名として続いていきます。何という名でしょうか？

- (1) 松千代
- (2) 竹千代
- (3) 梅千代
- (4) 藤千代

## 解説

竹千代という幼名は、史料によれば松平宗家四代親忠の時から使われており、以後、宗家の嫡子には必ず命名されてきました。家康公の父広忠は一般的には「千松丸」と呼ばれていますが、史料にはやはり「竹千代」と記されています。後世になって書かれたものでしょう。二代将軍である秀忠は三男であり、当初は長松丸という幼名でした。しかし長男の信康は自害、二男の於義丸は秀吉に養子として出されたため、徳川家の嫡子となって後に竹千代名が付けられています。この竹千代命名は、少なくとも四代将軍家綱の時まで続けられました。



竹千代直筆の書(法蔵寺/岡崎市)

## 問題7

天文13年(1544)、家康公3歳のとき、母於大は松平家を離縁され、幼い家康公は母と生き別れになります。離縁の原因はなんだったのでしょうか？

- (1) 夫婦の仲がわるかったため。
- (2) 松平家が今川家の娘を正室(嫁)に迎えることになったため。
- (3) 於大の病が悪化したため。
- (4) 於大の実家である水野家が今川方から織田方についたため。

## 解説

刈谷城の水野氏は、もともと緒川城を本拠地とする一族で、知多半島北東部から刈谷を中心とする西三河西部一帯を所領地としていました。古くから安城に進出した松平氏との婚姻関係もあり、独立した勢力としてその命脈を保ってきたと考えられます。ただ、織田氏と今川氏が尾張国内で抗争を始めるようになると、その立場を明確にする必要も出てきました。於大の離縁は織田氏に従う立場を明らかにした水野信元に対し、今川氏に従う立場を明確にする意志を示した広忠の決断であったと考えられます。



於大木像(大樹寺／岡崎市)

解答… (4)

## 問題8

天文16年(1547)、6歳で人質として今川家に送られることになった家康公でしたが、田原城主により尾張の織田家に送られてしまいました。家康公や松平家をだました田原城主は誰だったのでしょうか？

- |          |          |
|----------|----------|
| (1) 井伊直親 | (2) 鵜殿長照 |
| (3) 戸田康光 | (4) 牧野古白 |

## 解説

戸田氏は松平三代 信光の時代には、すでに上野城(豊田市上郷町)に存在していたことが史料に残されています。その後は東三河に進出し二連木城(豊橋市)や田原城(田原市)を支配しながら勢力を拡大しました。尾張の織田氏と駿河の今川氏による西三河の支配権争いが激しくなると、今川方に与していた戸田氏も独自の動きを探るようになります。田原城主 戸田康光は娘の真喜姫を広忠の継室としていたにもかかわらず、竹千代を織田方に送りました。結果、康光は今川義元に攻められて滅びますが、二連木の戸田氏はそのまま命脈を保ち、後には家康公に仕えて譜代大名となっていきました。



真喜姫の墓(龍海院／岡崎市)

解答… (3)

## 問題9

田原城を攻め滅ぼした今川軍は、天文18年(1549)織田方を攻め、信長の兄信広を捕らえると家康公との人質交換が成立し、家康公は尾張から駿府(静岡市)へと送られました。このときの今川と織田との合戦はどこでおこなわれたでしょうか？

- (1) 安城城 (2) 岡崎城  
(3) 刈谷城 (4) 清洲城

## 解説

家康公が尾張に人質として囚われている時、父親の広忠が24歳の若さで死亡してしまいました。駿河の今川義元は軍師であった太原雪斎を自分の名代として岡崎に派遣し、西三河での支配権を拡大する織田氏を排除しようとしています。そのためまず安城城を攻め、城代の織田信広を捕縛して竹千代との人質交換に成功しました。まだ8歳であった竹千代は再び義元のもとに送られ、主不在の岡崎城は今川氏の重臣が輪番で城代を務めるようになります。岡崎は今川氏の領国となっていたのです。



竹千代が父の墓の目印にしたと伝わる「獅子頭」  
(大林寺／岡崎市)

解答… (1)

## 問題10

人質交換で尾張から駿府に向かう途中、岡崎に立ち寄った家康公は、8ヶ月前に暗殺された父の墓に小松を植え、将来の松平家の繁栄を祈ったといわれます。後に岡崎城主となった家康公は、松が大きく茂っているのを喜び、ここに父の菩提寺を建立します。何という寺でしょうか？

- (1) 松應寺 (2) 大樹寺  
(3) 瀧山寺 (4) 天恩寺

## 解説

岡崎市には家康公が父 広忠や祖父 清康の菩提を弔うために残した史跡をいくつか見ることができます。清康に関しては茶毘に付した場所に隨念寺を創建し、清康とその妹でもあるお久の方の墓を建てました。お久の方は家康公が駿府で人質生活を送っている間、岡崎城を守り抜いた女性です。また、父 広忠に対してはやはり茶毘に付した「能見ヶ原」に松を植えたとされています。やがてそこに菩提を弔う寺を建立し、寺名を「松應寺」としました。松應寺では当時の松は枯れてしまいましたが、新たに松を植え大切に育てられています。



松平広忠廟(松應寺／岡崎市)

解答… (1)

## 問題11

8歳で今川家の人質となった家康公を、母がわりとなって養育した源応尼(華陽院)とはどのような女性だったのでしょうか？

- (1) 今川義元の乳母
- (2) 祖父清康の妹(大叔母)
- (3) 父の妹(叔母)
- (4) 母於大の母親(祖母)

## 解説

刈谷城主 水野忠政の妻として家康公の生母 於大を産んだ源応尼は、その美貌に目を付けた松平清康によって後妻に迎えられたとも言われています。竹千代が駿府へと送られる際、自らも駿府へと赴き、養育したのです。源応尼は知源院において読み書きなどの手習いを行い、そのときに使われていた机や硯などが岡崎市の法蔵寺に残されていると伝わります。この知源院は、源応尼が没後葬られ、源応尼の法名である華陽院と寺名を改め、現在に残ります。



源応尼像(龍拈寺／豊橋市)

## 問題12

駿府で家康公の教育を担当した太原雪齋とは、どのような人物だったのでしょうか？

- (1) 今川家の内政・外交・軍事に関わり、今川義元の教育も行った名僧であり執政であり軍師。
- (2) 今川家に代々仕える家老で、今川軍の総大将。
- (3) 京都からきた博学の公家で今川家の政治・外交顧問。
- (4) 今川の一族で、家臣に朱子学を広めた学者。

## 解説

幼くして仏門に出され、僧として修行を積んでいた今川義元の教育係であった雪齋は義元の家督争いに尽力し、側近となっていきます。周辺諸国との戦ではたびたび功績を挙げ、また長年抗争が続いていた武田や北条との同盟関係の構築を成し遂げ、京都との繋がりも深いなど、今川の屋台骨とも言える万能な人物でした。このような人物から薫陶を受けることができたということは、竹千代は将来を有望視されていた優秀な子供だったことが伺えます。



太原雪齋像(臨濟寺／静岡市)

## 問題13

家康公の学びの跡(手習いの間)が、静岡市の二カ所の寺院に残されています。どこどこでしょうか？

- (1) 可睡斎と清見寺 (2) 可睡斎と宝台院  
(3) 臨濟寺と清見寺 (4) 臨濟寺と宝台院

## 解説

臨濟宗妙心寺派の僧であった雪斎は、義元の兄、氏輝を葬った臨濟寺の二世住職となり、また戦火に晒されて荒廃していた清見寺を再興するなど、妙心寺派の興隆に貢献しています。臨濟寺、清見寺ともに手習いの間が残されていますが、臨濟寺では特別拝観の日を除いて非公開となっています。駿府城巽櫓内の資料館には、手習いの間が復元されていますので、そこで様子を見ることができます。清見寺は常時拝観が可能です。また朝鮮通信使が宿泊所としていましたので、これらの史料も興味深く見学ができます。



竹千代手習いの間(復元)／静岡市駿府城巽櫓

## 問題14

人質とは言え、松平家のプリンスとしての待遇も受けていたと考えられる家康公。弘治元年(1555)、その一例として、元服に際して今川義元自らが務めた役は何だったのでしょうか？

- (1) 烏帽子を被せる役「烏帽子親」  
(2) 童髪から成人用の髪に結び直す役「理髪」  
(3) 髪上げ道具と切り落とした髪を収納するための箱を取り扱う役「打乱」  
(4) 櫛で髪を整えるために用いる湯水を入れる器を扱う役「沍坏」

## 解説

元服とは現在で言う成人式です。烏帽子親は有力者に依頼することも多くありました。元服する者は名前の一字を譲り受け、『吾妻鏡』では一族に近い立場となることが記されています。家康公の場合も義元の「元」を譲り受け、松平元信と名乗るようになりました。また理髪を務めた関口義広は後に家康公の正妻となる築山殿の父であることから、義元は家康公を今川一門へ組み込んでいくことを望んでいたのでしょうか。



浅間神社。竹千代が元服したと伝わる(静岡市)

## 問題15

元服して元信もとのぶと名乗った家康公は、弘治2年(1556)、父祖はかまいの墓参りのため岡崎に一時帰国を果たします。そのとき、家康公は岡崎城に入城しますが、今川家の城代じょうだいに遠慮して本丸には入らず、二の丸に入りました。このことを聞いた今川義元は何と言ったと伝えられるのでしょうか？

- (1) 松平家の城なのだから、そこまで遠慮することはない。
- (2) これで松平家も今川の家臣の一員だ。
- (3) まだ若いにもかかわらず、何と思慮分別しりよぶんべつのあることか。
- (4) まだ若いにもかかわらず、分別臭くさくて困ったことだ。

## 解説

岡崎城は清康以降、松平家ほんきよちの本拠地であるとはいえ、当時の家康公は未だ人質の身。二の丸に入った家康公は、岡崎城代である山田景隆の指示を仰ぐという配慮を見せました。これは余計な揉め事もを避けるためでしょうが、同時に、義元からの評価を高めることにもなったのです。幼少期から優れた教えを受けていたことが「若年に似合しりよわぬ思慮深さ」を育んだのでした。



岡崎城二の丸、三河武士のやかた家康館(岡崎市)

解答… (3)

## 問題16

岡崎に里帰りの際、老臣の鳥居忠吉とりいただよし ひそくらが密かに蔵で家康公に見せ、家康公が感激したものはどのようなものだったのでしょうか？

- (1) 松平家伝来の鎧でんらい よろい かぶとと兜ふだい
- (2) 譜代家臣たちの連判状れんぱんじょう
- (3) 父の位牌いはい
- (4) 将来、岡崎に帰ってきたときのために蓄たくわえた武具や米・銭ぜになど

## 解説

既に老齡ろうれいであった忠吉にとって、家康公との再会は念願でした。密かに案内した蔵には将来の軍備のために武具や米、銭などが蓄えられていました。鳥居家は渡場からの副収入がありましたが、今川勢に徴税されながらの蓄財は並々ならぬ努力であったことでしょう。「銭を横に積めば割れてしまうが縦に積めば割れない」という忠吉の教えは、家康公が後年までたびたび口にしていたと伝わっていることが、どれだけ感激したかを物語っています。



鳥居氏発祥の地、渡城址(岡崎市)

解答… (4)



## 問題17

弘治3年(1557)、今川義元めいの姪と結婚した家康公は、翌えいろく、永禄元年(1558)、初陣ういじんにあたり、武名の高い祖父清康から一字をもらって元信から改名しました。なんと名乗ったのでしょうか？

- |                |                |
|----------------|----------------|
| (1) 家康<br>ひでやす | (2) 元康<br>もとやす |
| (3) 秀康<br>ひでやす | (4) 康忠<br>やすただ |

## 解説

松平清康は安城家四代当主となると、岡崎城きよてんに拠点を移します。そして短期間のうちに三河統一を成し遂げるなど武勇に優れ、また離反していた一族をまとめるなど、家臣からの信頼も厚いという非常に優れた武将でした。しかし尾張すいたいの守山で若くして命を落とし、松平家は再度衰退してしまいます。家康公はこの祖父を尊敬していたため、清康の「康」と以前より用いていた義元の「元」をあわせ、「元康」と名乗ったといわれています。



松平清康肖像(部分/岡崎市随念寺)

## 問題18

永禄3年(1560)、今川軍の先陣おけほざとして19歳で桶狭間の戦いに出陣した家康公の大変危険な任務とは何だったのでしょうか？

- (1) 織田信長の本隊を奇襲きしゅうすること。
- (2) 織田家の本城、清洲城を攻めること。
- (3) 孤立した大高城(名古屋市)に兵糧ひやうろうを運び込むこと。
- (4) 母うらぎの大の実家である刈谷城の水野氏に織田家を裏切らせること。

## 解説

桶狭間の戦い当時、今川方は圧倒的であつたというイメージがありますが、織田方の鳴海城主 山口教継のりつねを調略したことを足がかりに、ようやく敵中深く確保できた拠点のひとつが大高城です。織田方もこれを奪い返すために周囲を皆で囲んで対抗しました。孤立した大高城へ兵糧ひやうろうを運び込むという過酷な任務を任されたのが家康公でしたが、期待に応え一兵も損なうことなく成し遂げるのでした。しかし、翌日には義元討死の報かが届き、混乱こんらんの中、再度、過酷な退却を行うことになってしまいます。



大高城址(名古屋市緑区)

## 問題19

任務に成功した家康公でしたが、桶狭間(名古屋  
市)で今川義元が討ち死にしたことを知り、松平  
家の菩提寺大樹寺まで撤退。先祖の墓の前で自害  
しようとしませんが、住職の登誉上人からある言葉  
を授かり、平和な世の中をつくろうとの志を立て  
ます。ある言葉とは何でしょうか？

- (1) 厭離穢土 欣求浄土 (2) 元和厭武  
(3) 天下布武 (4) 風林火山

## 解説

「厭離穢土 欣求浄土」とは『往生要集』の  
一節で、穢土(現世)を厭い離れ、浄土(極  
楽)を願い求める、という意味です。敵兵に囲まれ  
絶望していた家康公に突き付けられたこの言葉が、  
先祖代々の墓の前で自害  
しようとしていた家康公  
に生きる活力を与えたの  
です。一時だけではなく、  
長く平和な時代を築くと  
いう誓いを心に抱き、再  
度、乱世へと身を投じて  
いったのです。以後、  
この言葉を旗印にし、戦  
場で掲げるようになります。



登誉上人像(大樹寺/岡崎市)

解答… (1)

## 問題20

家康公の大樹寺から岡崎城への入城にあたり、武  
田信玄が「(家康は)文武分別両方達したる人也」と  
ほめた(甲陽軍鑑)のは、どのようなことだったで  
しょうか？

- (1) 今川の岡崎城代山田新右衛門と引き継ぎを行ってから入城したこと。  
(2) 岡崎城の今川軍を攻め、降伏させてから入城したこと。  
(3) 今川義元の嫡男氏真に岡崎城の守備をすること  
を知らせる手紙を送ってから入城したこと。  
(4) すぐに入城せず、数日後、今川の将兵が岡崎城から撤退するの  
を見届けてから「捨てた城なら拾おう」と堂々と入城したこと。

## 解説

大樹寺で武将としての再スタートを決断  
した家康公でしたが、岡崎城には戦意を  
喪失した今川の武将が入城したままでした。今川勢  
はさっさと城を引き渡して逃げ  
ようとしたのですが、家康公は「指  
示も無く勝手なことは出来ない」と断ります。そのうちに今  
川勢は城を捨てて逃げ帰ってし  
まったので「捨てた城なら拾お  
う」と入城したのです。6歳  
で人質となってから13年。よう  
やく松平家の当主として岡崎へ  
復帰できたのです。



岡崎城天守閣から  
大樹寺に向けての  
ビスタラインライト  
(岡崎市)

解答… (4)

## 問題21

家康公着用の「金陀美具足」について、正しい説明はどれでしょうか？

- (1) 家康公が生涯を通じて着用したと伝わる具足。日光東照宮に保管。
- (2) 家康公が桶狭間の合戦の際に着用したと伝わる具足。久能山東照宮に保管。
- (3) 家康公が朝鮮出兵の際に着用したと伝わる具足。久能山東照宮に保管。
- (4) 関ヶ原の合戦の際に着用していたと伝わる具足。日光東照宮に保管。

## 解説

久能山東照宮に収蔵されているこの具足は、桶狭間の戦いで、家康公が担当した大高城への兵糧入れの際に着用していたと伝わっています。現在は東京で2015年4月からおよそ1年をかけた解体修復作業中です。家康公が着用していた当時の美しさを取り戻し、再び久能山東照宮博物館に展示される予定です。



金陀美具足(レプリカ)

## 問題22

岡崎への帰還を果たした家康公は、挙母城など織田方の諸城(豊田市)を攻めました。このすばやい行動に危機感をもって織田信長に停戦・和睦を進言、取り持った武将は誰でしょうか？

- (1) 今川氏真
- (2) 酒井忠次
- (3) 羽柴秀吉
- (4) 水野信元

## 解説

刈谷の水野信元は、桶狭間の戦いで義元討死の報を家康公に届けるなど、しばしば家康公に協力していましたが、岡崎に戻った家康公と戦いを繰り広げました。危機感を持った信元は、松平と織田の和睦、そして同盟に一役買うこととなりました。その後は家康公と協力する関係に戻りましたが、後に信長から武田との内通を疑われ、家康公の家臣 平岩親吉によって殺害されてしまいます。



刈谷城模型(刈谷市)

## 問題23

永禄5年(1562)、戦国大名としての自立を目指す家康公と、美濃国斎藤氏攻略を目指す織田信長は清洲城で軍事同盟を結びます。この「清洲同盟」はいつまで続いたのでしょうか？

- (1) 美濃平定まで
- (2) 信康・築山事件まで
- (3) 足利将軍を追放するまで
- (4) 本能寺の変まで

## 解説

お互いまだ小勢力であった頃に結ばれた清洲同盟も、拡大する織田家に対し徳川家は従属関係に近い形に変化していきます。それでも途中、「信康・築山事件」などの試練を乗り越え、信長が亡くなるまで21年間続きました。状況によって同盟など簡単に破棄される戦国時代において、この同盟は奇異とすら思えますが、信長を、そして家康公をお互いがパートナーとして選んだ双方の眼は確かであったということでしょう。



清洲城発掘石垣(清須市)

## 問題24

永禄6年(1563)、信長と同盟を結んだ家康公は、今川家との決別の意味も込め、2度目の改名をし、松平家康を名乗ります。「家」の文字は武士の棟梁として名高い源義家からとったと言われますが、源義家が活躍したのはどの戦いだったのでしょうか？

- (1) 元寇
- (2) 壬申の乱
- (3) 後三年の役
- (4) 平将門の乱

## 解説

奥州で抗争を続ける清原氏の内紛に、朝廷からの正式な官位「陸奥守」として源義家が介入、後三年の役が始まります。ところが義家はこの戦いを私欲によるものと見なされ、官位を解かれ京に呼び戻されてしまいました。しかし、自分についた武士たちには所領の土地を惜しみなく与えていったことで、その武名を天下に高め、後に源氏の棟梁として神格化されたのです。



源義家像(後三年の役絵詞)

## 問題25

家康と名を改めた永禄6年(1563)、「三河一向一揆」が勃発しました。この事件が家康公にとって最も危機的であったと考えられることはどのようなことでしょうか？

- (1) 一向宗徒によって国が奪われそうになったこと。
- (2) 膨大な一揆方に岡崎城まで攻め込まれたこと。
- (3) 三河の反「松平」の豪族が便乗して一揆側に味方したこと。
- (4) 譜代の家臣団が分裂して争う事態になってしまったこと。

## 解説

一向一揆とは浄土真宗本願寺派の門徒による一揆ですが、門徒として多くの家臣たちが一揆側についてしまいました。その中には石川や酒井、本多に鳥居といった譜代の家の一族も含まれ、主君たる家康公よりも信仰を選ぶ者が出たのです。一族で敵味方に別れ、双方が大きな葛藤を抱いたまま戦い、多くの死者を出してしまいました。このことこそが家康公にとって大変な危機だったのです。



一揆の拠点、本證寺(安城市)

## 問題26

一揆側との交渉の際、家康公が首謀者の助命に難色を示していた時、「寛大な心をもって味方を増やし、未だ齒向かう敵を鎮圧すべきである」と家康公に進言、和睦に大きな役割を果たした三河武士は誰でしょうか？

- (1) 石川数正
- (2) 大久保忠俊
- (3) 蜂屋貞次
- (4) 渡辺守綱

## 解説

松平側にも一揆側にも厭戦ムードが漂う中、和平交渉が始まります。家康公は一揆が出した三つの条件の「一揆当事者の助命」だけでは難色を示します。一族皆が家康公に味方して戦った大久保党の長老 忠俊は、遺恨を越えて松平家を強くすることを訴え、家康公はこれを受け入れました。その言葉通り、許された多くの武将が家康公のために命を投げ打って働いたのです。三河武士が鉄の結束を誇るきっかけとなった事件と言えるでしょう。



大久保一族旧跡碑(岡崎市上和田町)

## 問題27

永禄9年(1566)、三河一国をほぼ平定した25歳の家康公は、朝廷より徳川復姓が許され、従五位下・三河守に任じられます。この徳川とは、どの氏から連なる姓でしょうか？

- (1) 足利氏 (2) 阿部氏  
(3) 楠木氏 (4) 新田氏

## 解説

岡崎市にある大樹寺の多宝塔は松平清康が建立したのですが、心柱には「世良田次郎三郎清康安城四代岡崎殿」と記されています。世良田氏は新田氏初代 義重の子 親季が世良田の地を領有したことから始まります。更に得川の地を与えられ、家康公が改めた徳川はここに由来します。祖父の代から既に新田氏の末裔を名乗っており、また実際に家康公は徳川に改める前から「源 元康」とも署名しており、その書状も残っています。



大樹寺多宝塔(岡崎市)

解答… (4)

## 問題28

三河をほぼ統一した家康公は家臣団の再編に取り組みます。他の松平一門には徳川姓の使用を許さず、東・西三河にそれぞれ旗頭を定め、その配下に三河武士団とともに一門の松平氏も加えます。東西三河の旗頭について、正しい組み合わせはどれでしょうか？

- (1) 鳥居忠吉と大久保忠世  
(2) 本多広孝と酒井正親  
(3) 酒井忠次と石川数正(当初は家成)  
(4) 本多忠勝と榊原康政

## 解説

松平一族は、たびたび分裂を起こし争ってきました。家康公は幼少時から側近として仕え、縁者でもある酒井忠次や石川家成、数正をそれぞれ東西の旗頭に置き、その下に松平一族を配置することで過剰な力を持たないように制御しました。また別に家康公直属の部隊である旗本先手役を設け、主だった武将を配置することで機動性に優れた強力な軍となりました。



酒井忠次が城主となった吉田城(豊橋市)

解答… (3)

## 問題29

同時期に、軍事だけではなく内政の充実を図るために「三河三奉行」を設置します。家康公の人事の妙が讃えられる3人ですが、そのなかで、厳格な性格で鬼作左とうたわれたのは誰でしょうか？

- (1) 天野康景 (2) 伊奈忠次  
(3) 高力清長 (4) 本多重次

## 解説

三河三奉行は「仏高力 鬼作左 とちへんななしの天野三兵」と謳われ、三者三様の行政を行いました。鬼と呼ばれた本多重次は、気性が荒く武勇に優れた荒武者であった一方で、領民の話をよく聞き、実直な性格であったため、良い奉行となりました。日本一短い手紙「一筆啓上 火の用心 お千泣かすな 馬肥やせ」や、上洛する家康公を守るため、岡崎に来ていた秀吉の母 大政所の屋敷の周りに薪を積み上げて主君に何かあればいつでも報復してみせると脅しをかけるなど、多くの逸話を残した人物です。



本多重次像(本願寺蔵/取手市)

解答… (4)

## 問題30

永禄11年(1568)、家康公は今川領の遠江への侵攻を図りますが、どのような状況で行動を起こしたのでしょうか？

- (1) 武田信玄の駿河侵攻に合わせて、遠江に侵攻した。  
(2) 武田信玄の遠江侵攻に対して出兵した。  
(3) 今川氏真の武田軍に対する援軍要請を受けて出兵した。  
(4) 織田信長の命令で、武田信玄に対抗するため侵攻した。

## 解説

武田信玄は川中島で多大な被害を出した上杉謙信との対決を避けるようになりましたが、そんな中、美濃攻略を目指す信長との関係が改善されていたこともあって、今川侵攻に舵を切ります。当初、北条氏との協力を模索していた信玄でしたが破談に終わり、大井川を国境とする約定を家康公と結んだ上で共に今川攻めを行いました。しかしこの約定も武田家が反故にし、徳川や織田と武田家の関係が悪化していくのでした。



武田信玄像(甲府市)

解答… (1)

## 問題31

永禄12年(1569)、今川氏真が籠もる掛川城を落とし、戦国大名としての今川氏を滅亡させた家康公が、遠江の領国化と武田信玄対策を進めるため、次に行ったことは何だったのでしょうか？

- (1) 相模の北条、越後の上杉と三国同盟を結び武田包囲網を構築した。
- (2) 掛川城を遠江進出の拠点として、大井川沿いの守りを強化した。
- (3) 曳馬(引馬)の地を浜松と改め、新たに城をつくって岡崎から本城を移した。
- (4) 織田の援軍を得て駿河に侵攻し、信玄との早期対決を試みた。

## 解説

今川氏真が立てこもる掛川城を落とした家康公は、翌年の元亀元年(1570)、居城を三河岡崎城から東の遠江に移します。天龍川(静岡県)の西にある曳馬(引馬)の城に大規模な改修を行い、地名も曳馬から浜松に改めて浜松城としました。「曳馬(引馬)」という地名が敗戦(馬を引く→退却する)をイメージさせることから、新しい城には縁起を担ぎ、かつてこの地にあった荘園「浜松荘」から名前がつけられました。



曳馬城址(浜松東照宮／浜松市)

## 問題32

元亀元年(1570年)、清洲同盟により、信長の越前討伐軍に加わった家康公は、「金ヶ崎」(敦賀市)と「姉川」(長浜市)で戦い、徳川軍の実力をアピールしています。このとき戦った相手は誰でしょうか？

- (1) 浅井・朝倉連合軍
- (2) 足利義昭
- (3) 上杉謙信
- (4) 本願寺顕如

## 解説

元亀元年(1570)、家康公は同盟を組んでいる織田信長と共に、姉川(長浜市)で浅井・朝倉連合軍と戦いました。姉川の合戦では、川を挟んで徳川軍は朝倉軍、織田軍は浅井軍にそれぞれ対峙して戦いました。戦では徳川軍は倍の兵数の朝倉軍に果敢に戦を仕掛けます。機を見て家康公の家臣 榊原康政の別働隊が強引に川を渡って迂回し、朝倉軍の側面を攻撃しました。これによって朝倉軍は総崩れ、さらに浅井軍に押されていた織田軍を徳川軍が援軍に入って助けました。徳川軍の活躍がこの合戦を勝利に導いたのです。



榊原康政肖像  
(東京国立博物館)



## 問題33

元龜3年(1572年)の「<sup>みかたがはら</sup>三方ヶ原の合戦」が起こった背景について、武田信玄は誰の呼びかけに応じて織田信長包囲網に参加し、西上作戦を開始したのでしょうか？

- (1) 浅井長政 <sup>あざいながまさ</sup>  
うじやす  
(2) 足利義昭 <sup>あだしぎあき</sup>  
もと  
(3) 北条氏康 <sup>きたじょうしやう</sup>  
(4) 毛利輝元 <sup>もうりてるもと</sup>

## 解説

織田信長は永禄10年(1567)、美濃の齋藤氏を滅ぼすと念願の稲葉山城に入り、名を岐阜城と改めました。この時に「天下布武」の印を作り天下統一の志を新たにたと伝えられます。その翌年には流浪を余儀なくされていた足利義昭を奉じて上洛、義昭は十五代将軍になります。しかし次第に信長を疎むようになり、近辺の有力大名や比叡山、さらに石山本願寺などを味方に引き入れ、いわゆる「信長包囲網」を築き上げました。甲斐の武田信玄は足利義昭の要請を受け、また自らが石山本願寺の熱心な檀徒でもあったことから西上を開始したのです。



足利義昭木像(等持院・京都市)

## 問題34

三方ヶ原の合戦の2ヶ月前、偵察に出ている徳川軍は武田の先発隊と遭遇します。兵も少なく、家康公は撤退を指示。本多忠勝らの活躍でなんとか難を逃れることができました。後に、「家康に過ぎたるものが二つあり唐の頭に本多平八」と、本多忠勝の武功を称えられた三方ヶ原の前哨戦ともいえるこの合戦を何というのでしょうか？

- (1) 諏訪原城の合戦 <sup>すわばらじょう</sup>  
(2) 高天神城の合戦 <sup>たかてんじんじょう</sup>  
(3) 一言坂の合戦 <sup>ひとことざか</sup>  
(4) 二俣城の合戦 <sup>ふたまたじょう</sup>

## 解説

三方ヶ原の戦いの前哨戦となった一言坂の戦いで「家康に過ぎたる武将」と謳われ、

その名を世に知らしめた本多忠勝は、家康公の家臣で徳川四天王の一人に数え上げられる三河武士です。忠勝は代々松平家に仕える譜代の家に生まれました。祖父も父も戦で討死しています。武勇の家に生まれた本多忠勝は13歳の初陣以来、主君 家康公と共に戦場で戦い続け活躍をしました。

本多忠勝像  
(良玄寺・千葉県大喜町)

## 問題35

三方ヶ原の本戦では、家臣たちの諫言<sup>かんげん</sup>を聞かぬ無理な出陣<sup>わだわ</sup>が災い<sup>わざが</sup>して武田信玄に大敗します。この時に家康公の身代わり<sup>の</sup>となって敵陣に斬りこみ、家康公を浜松城まで逃がした家臣は誰でしょうか？

- (1) 大久保忠佐 (2) 夏目吉信  
(3) 蜂屋貞次 (4) 本多正信

## 解説

三方ヶ原の戦いで、徳川軍はよく戦いましたが、武田軍との圧倒的な兵力差もあり大敗してしまいました。浜松城に退却のさ中、途中で敵軍に追いつかれてしまいます。死を覚悟した家康公でしたが、浜松城から救援に駆け付けた夏目吉信が家康公の身代わりになって敵陣に切り込んで討死しました。その間に家康公は無事に浜松城に入ることができました。夏目吉信は三河一向一揆の時、家康公に敵対しましたが、家康公に赦された恩をここで返したのです。



夏目吉信忠雄碑(浜松市)

解答… (2)

## 問題36

三方ヶ原の合戦で武田軍に惨敗した徳川軍でしたが、その夜、動ける兵達を率いて野営する武田軍に夜襲を仕掛け、一矢を報いた場所はどこでしょうか？

- (1) 犀ヶ崖 (2) 浜名湖  
(3) 一言坂 (4) 祝田坂

## 解説

三方ヶ原の合戦では大敗をし、浜松城に逃げ帰った徳川軍でしたが、大久保忠世を中心としたまだ力の残っていた武将達は、武田軍に一矢報いるためにもう一度出陣しました。徳川軍に勝って、さらに進軍を続ける武田軍を追い犀ヶ崖に辿り着くと、そこで夜襲を仕掛けました。不意を突かれた武田軍は混乱し、大きな犠牲が出ました。徳川軍は負けてもなお、敵に自分達の強さを知らしめたのです。



犀ヶ崖。街の中に大きな裂け目があり崖になっている(浜松市)

解答… (1)

## 問題37

三方ヶ原合戦の直後の家康公31歳の肖像画「しかみ像」ですが、何のために描かせたのでしょうか？

- (1) 戦に負けた不甲斐なさを描かせたことで、家臣たちに奮起を促した。
- (2) 戦に勝てなかった怒りを描かせたことで、自分に奮起を促した。
- (3) 多くの家臣を失い、憔悴しきった姿を描かせたことで、自分への戒めとした。
- (4) 死におびえる恐怖を描かせたことで、戦に対する戒めとした。

## 解説

31歳の若き家康公が武田信玄に戦いを挑んだ三方ヶ原の戦いは、残念ながら敗北に終わりました。この戦いで大切な家臣達を多く失った家康公は、無謀な戦いを挑んだことを深く反省したといえます。そして自分の憔悴しきった姿を絵師に描かせ、これを戦いの度に自分の側に置いていました。この絵を見るたびに三方ヶ原の敗戦を思い出し、早まった行動をしないことと、家臣の諫言に耳を傾けるよう戒めたのです。



しかみ像立体像(浜松市)

## 問題38

三方ヶ原で徳川軍を破った信玄は、西上し三河野田城(新城市)を落としますが、そのまま遠征中に病死。家康公は窮地を脱します。武田家の跡を継いだ勝頼は3年後の天正3年(1575)、長篠城(新城市)を包囲。このとき、長篠城を抜け出して岡崎城の家康公にその窮状を訴え、再び城に戻る途中、武田軍に捕まりながらも城中に向かって援軍の到着間近なことを告げ、磔の刑に処せられた烈士は誰でしょうか？

- (1) 天野三郎兵衛
- (2) 奥平忠明
- (3) 菅沼定盈
- (4) 鳥居強右衛門

## 解説

鳥居強右衛門の勇氣ある行動は、多くの人々に称えられ語り継がれてきました。特に敵方であった落合佐平次は、磔にされた強右衛門の姿をそのまま自分の旗指物にして使ったと伝えられます。また長篠城対岸には強右衛門の顕彰碑が、岡崎城本丸御門の場所には、世界的な地理学者である志賀重昂によって、顕彰碑「アラモの碑」が建てられています。



落合佐平次旗指物(長篠城まつり/新城市)

## 問題39

長篠の合戦において、家康公の家臣酒井忠次が考えた奇襲作戦が、徳川・織田連合軍が武田軍に勝利する突破口となりました。それはどのような作戦だったのでしょうか？

- (1) 夜間に豊川を渡り、武田勝頼本陣の背後にまわり急襲して退路を断った。
- (2) 長篠城の背後にある鳶ノ巣山砦を夜間に急襲して占領し、武田軍の退路を断った。
- (3) 長篠城の奥平勢と呼応し、武田勢を挟み撃ちにした。
- (4) 伊賀者を武田勢の中に忍び込ませ、戦国最強をうたわれた武田騎馬隊の馬を逃がした。

## 解説

長篠合戦で徳川・織田連合軍の勝利の突破口となったのが、鳶ノ巣山奇襲作戦です。酒井忠次率いる部隊は、長篠城の南東を守る鳶ノ巣山の砦を夜間に攻撃、この砦を落とすことに成功しました。これにより武田軍の退路が断たれ、徳川・織田連合軍の勝利に大きくつながりました。



長篠の合戦屏風(部分)「鳶ノ巣山砦の攻防」(白帝文庫)

## 問題40

家康公の優れた家臣団の活躍から武田軍は設楽ヶ原におびき出され、織田軍の鉄砲隊により壊滅させられます。大勝利の後、信長が酒井忠次をほめた言葉(三河物語)と伝えられるのは次のどれでしょうか？

- (1) 忠次には10の目がついている。
- (2) 忠次には頭の後ろにも目がついている。
- (3) 忠次の海老すくい踊りは日ノ本一。
- (4) 忠次の陣太鼓は日ノ本一。

## 解説

長篠の合戦で徳川家康と連合軍を組んでいた織田信長は、酒井忠次が進言した「鳶ノ巣山奇襲作戦」に大いに感動しました。信長は忠次からこの案を聞いたとき、万が一にも敵に情報も漏れないように即座に否定し、後で密かに実行する旨を忠次に伝えたといいます。信長は酒井忠次の百戦錬磨の経験からなる戦力眼に深く感心し、「忠次には10の目がついている」と褒め称えました。



酒井忠次肖像(先求院/京都市)

## 問題41

家康公の遠江進出に伴い岡崎城主となった長男信康は勇猛な武将であったと伝えられますが、信康の武功として伝わるのはどれでしょうか？

- (1) 義父でもある信長と共に、越前金ヶ崎城攻めに参加した。
- (2) 弱冠10歳で初陣を果たし、傳役の平岩親吉を助けた。
- (3) 三方ヶ原の合戦で浜松城を守り、敵兵を近づけなかった。
- (4) 遠江横須賀の戦いで、退却する徳川本隊の殿を務めた。

## 解説

家康公の長男で徳川家の跡継ぎとして期待されていた松平信康は、若くして大将の器を持っている武将でした。家康公は信康と共に多くの戦いをしましたが、特に長篠合戦後の武田氏との戦いで、信康は多くの手柄を挙げました。遠江横須賀の戦いでの活躍は目ざましく、自ら命の危険が大きい退却戦での殿を務め、武田軍に大井川を渡らせませんでした。

武田勝頼は敵ながら信康の活躍に大いに感動し「長生せば、必ず天下に旗を立つべし」と言ったと伝わります。



岡崎三郎信康像(勝蓮寺／岡崎市)

解答… (4)

## 問題42

武田を破り、伸長期を迎えていた徳川家に暗い影が忍び寄ります。長男信康と正室築山殿の行状を訴えた手紙を信長に書き送り、信康・築山事件の発端をつくった徳姫とは誰でしょうか？

- (1) 家康公と築山殿の娘で信康の妹
- (2) 信長の娘で信康の妻
- (3) 母於大の方の再婚した夫との娘
- (4) 甲斐出身の信康の側室

## 解説

織田信長の娘である徳姫は、清州同盟の証しとして家康公の長男 信康の許に嫁ぎました。信康と徳姫の間には二人の娘が生まれましたが、やがて夫婦仲が悪くなったのか、徳姫は信長に信康と築山殿が敵である武田と通じているという内容の手紙を書き送ったのです。岡崎城に嫁いでいた徳姫が、夫を陥れる手紙を本当に書いたのかは疑問視もされていますが、このことで信長は家康公に信康の処断を促してきたのです。



織田信長肖像(長興寺／豊田市)

解答… (2)

## 問題43

信長から<sup>しよだん</sup>の命令を受け、長男信康と正室築山殿は自害に追い込まれます。遠江二俣城(浜松市)で切腹した信康の供養のために、二俣城の近くに家康公が<sup>こんりやう</sup>建立した寺はどこでしょうか？

- (1) 可睡斎 <sup>かすいさい</sup>  
 (2) 清瀧寺 <sup>せいりゅうじ</sup>  
 (3) 西来院 <sup>せいらいいん</sup>  
 (4) 龍潭寺 <sup>りゅうたんじ</sup>

## 解説

織田信長から信康の処断を促された家康公は、何とか助けようと努力しますが、信康は二俣城で徳川家を守るために自ら切腹をしました。徳川家の後継者として将来を期待されていた信康を失ったことは、家康公だけでなく、家臣達にとっても最大の悲劇となりました。大久保彦左衛門は「これほどの殿はまたでることはない、みな声をあげて泣き悲しんだ」と記しています。家康公は信康が自害した二俣城の近くに<sup>せいりゅうじ</sup>清瀧寺を建立し、供養しました。



松平信康廟所(清瀧寺／浜松市)

## 問題44

同じく、<sup>さなるこほん</sup>佐鳴湖畔(浜松市)で生涯を終えた築山殿の<sup>びやうじよ</sup>廟所がある寺院はどこでしょうか？

- (1) 可睡斎 (2) 清瀧寺  
 (3) 西来院 (4) 龍潭寺

## 解説

家康公は人質時代に、今川義元の姪であった関口義広の娘と結婚しました。二人の間には長男 信康と長女 亀姫が生まれました。家康公が今川家から独立した後は、岡崎城から少し離れた築山という所に住んだので築山殿と呼ばれるようになります。信長が信康の処断を命じてきた時、築山殿は家康公の居城であった浜松城に向かう途中の佐鳴湖畔で自ら命を絶ったと伝わります。一説には息子<sup>たんがん</sup>信康の助命を嘆願して自害したとも考えられています。築山殿の<sup>びやうじよ</sup>廟所は自害した場所からほど近い<sup>せいらいいん</sup>西来院にあります。



築山殿廟所(西来院／浜松市)

## 問題45

天正10年(1582年)、信長による甲州征伐<sup>こうしゅうせいばつ</sup>で武田氏<sup>めつぼう</sup>は滅亡<sup>きゅうりょう</sup>。武田氏の旧領のうち一ヶ国が信長より家康公に与えられ、家康公は、かつての今川義元と同じく三ヶ国の大名となりました。与えられたのはどの国でしょうか？

- (1) 甲斐<sup>かい</sup> (2) 信濃<sup>しなの</sup>  
 (3) 駿河<sup>しづな</sup> (4) 飛騨<sup>ひだ</sup>

## 解説

長篠の合戦後、家康公と織田信長の武田征伐<sup>てんもくざん</sup>の戦いの末、ついに勝頼は天目山で自害に至り武田氏は滅亡しました。家康公は信長から駿河一国を与えられ、三河・遠江と合わせて三ヶ国の大名となりました。駿河はかつて家康公が今川家での人質時代を過ごした場所でした。41歳の家康公は、あの時の今川義元と同じ領地を治める戦国武将となったのです。



武田勝頼像(錦絵)

解答… (3)

## 問題46

武田氏滅亡から3ヶ月後、京の本能寺にて信長が明智光秀<sup>あけちみつひで</sup>に襲われ自害<sup>おそ</sup>します。このとき、信長に招かれていた家康公一行は堺<sup>さかい</sup>にいましたが、本能寺の変の一報を聞いた家康公は、まずどのような行動をとろうとしたのでしょうか？

- (1) 堺から舟に乗り海路で脱出しようとした。  
 (2) 高野山<sup>こうやさん</sup>に入り出家<sup>しゅっけ</sup>しようとした。  
 (3) 少人数で勝ち目がないので、明智光秀<sup>こうふく</sup>に降伏<sup>ち</sup>しようとした。  
 (4) 京に戻って明智と戦い、知恩院<sup>ちおんいん</sup>で自害しようとした。

## 解説

天正10年、武田氏を滅亡させて三ヶ国大名になった家康公は、信長の勧め<sup>すす</sup>で堺の町を見物していました。しかし、ここで家康公にとって最大の危機が訪れます。元三河武士で、京都で商人をしている茶屋四郎次郎から織田信長が本能寺(京都市)で明智光秀に討たれたとの知らせが入ったのです。わずかな家臣しか連れていなかった家康公は知恩院(京都市)で切腹する覚悟をしますが、家臣の本多忠勝の進言で思いとどまり、伊賀(三重県)を越えて岡崎城に帰り、兵を整えて光秀を討つことを決意します。



伊賀越えの山道(東大阪市生駒山)

解答… (4)

## 問題47

家康公<sup>いっこう</sup>一行の「伊賀越え」を助けた、元は三河出身とも三河武士とも言われる京の商人は誰でしょうか？

- (1) 今井宗久<sup>そうきゅう</sup> (2) 茶屋清延<sup>ちや きよのぶ</sup>  
 (3) 津田宗及<sup>つだ そうきゆう</sup> (4) 納屋助左衛門<sup>な やすけ えもん</sup>

## 解説

堺の地から岡崎まで帰る伊賀越えの道はとても険しく、家康公の首を狙う土豪や野武士達が多く潜<sup>ひそ</sup>んでいて危険でした。そこで力を発揮したのが、茶屋四郎次郎清延<sup>きよのぶ</sup>です。清延は、元々は三河国中島出身の三河武士ですが、京都で商人となっていて、家康公のために経済活動や情報収集などに努めていました。清延は土豪や伊賀者たちともつながりがあり、また野武士や野盗などには金銭なども使って安全を確保しながら、家康公一行の先導を果たしたのです。



茶屋清延像(情妙寺蔵/名古屋市東区)

解答… (2)

## 問題48

伊賀越えの際、伊賀同心<sup>どうしん</sup>が家康公に協力をしたのはどのような理由からと考えられているのでしょうか？

- (1) 信長亡き後、天下<sup>おさ</sup>を治める武将は家康公だと思われていたから。  
 (2) 本能寺の変で信長を討った明智光秀が伊賀出身の武将だったから。  
 (3) 羽柴秀吉が多く<sup>め</sup>の伊賀者<sup>かか</sup>を召し抱えていたから。  
 (4) 「天正伊賀の乱」で信長に苦しめられた伊賀者たち<sup>いさざつ</sup>を家康公がかくまった経緯から。

## 解説

伊賀越えの際、伊賀者の族党でもある家康公の服部正成が、現地の伊賀同心たちに家康公の護衛をさせ無事に生還することができました。家康公と伊賀者の結びつきはそれ以前からあり、かつて「天正伊賀の乱」で信長に迫害された伊賀者達を、家康公がかくまって助けたという出来事がありました。伊賀者達はその恩を忘れず、伊賀越えの際に家康公の危機を救ったのです。



服部半蔵像(徳川十六将図・部分)

解答… (4)



## 問題49

無事、岡崎城にもと戻った家康公は、京都に出ることはなく、信長死去によりこんらん混乱し情勢不安定になっていた二ヶ国の鎮定にあたりました。後に領有することになった二ヶ国はどこでしょうか？

- (1) 甲斐と信濃 (2) 美濃と飛騨  
(3) 駿河と伊豆 (4) 伊勢と伊賀

## 解説

伊賀越えから無事に岡崎に帰国して、明智光秀征伐のために出兵した家康公でしたが、羽柴(後の豊臣)秀吉が一足先に光秀を討ってしまいました。家康公はすぐに気持ちを切り替え、信長死去により情勢が不安定になっていた甲斐と信濃の鎮撫に出陣します。北条氏との争いもありましたが、結果この二ヶ国を新たな領地に加えた家康公は、旧武田の遺臣達を取り込んで新たな国づくりに力を入れ、五ヶ国大名としての力を充実させていきました。



武田の遺臣を集めて徳川に従うよう説得した「江尻城」(模型/静岡市)

解答… (1)

## 問題50

信長の死後、後継者としての地位を固めてきた羽柴秀吉の台頭に危機感を持った家康公は、信長の遺児(二男)からの協力要請を受け、秀吉と小牧・長久手で戦うことになります。家康公に協力要請をした信長の遺児とは誰でしょうか？

- (1) 織田信雄 (2) 織田信孝  
(3) 織田信忠 (4) 織田信秀

## 解説

いち早く明智光秀を討ったことにより、発言権を強めた秀吉は織田家の跡継ぎを信長の嫡孫である幼い三法師に強引に決定します。そのため織田家の家臣達には不満が多く残りました。信長の三男 信孝を支持していた柴田勝家は賤ヶ岳の戦いで秀吉と戦いますが敗れてしまいました。信長の後継者のごとく振る舞う秀吉に対して二男の織田信雄は家康公に声をかけ、連合軍を組んで秀吉と対決することになります。これが小牧・長久手合戦の始まりです。



織田信雄肖像(建勳神社/京都市)

解答… (1)

## 問題51

天正12年(1584)、小牧・長久手の合戦では家康公の家臣たちが大活躍をします。なかでも武田氏の遺臣を多く召し抱え、朱具足で揃えた「赤備え」で活躍した徳川四天王の一人は誰でしょうか？

- (1) 井伊直政 (2) 酒井忠次  
(3) 榊原康政 (4) 本多忠勝

## 解説

井伊直政は徳川四天王の一人に数え上げられる家康公の家臣です。直政の出身地の井伊谷は遠州の地で、三河武士ではありませんでしたが、家康公の妻 築山殿の縁戚でもあり、徳川家に取り立てられて活躍しました。井伊直政が率いる部隊は「井伊の赤備え」と呼ばれた精鋭達で、具足も旗指物も赤色で統一した軍団でした。この赤備えの部隊は、武田の遺臣達を家康公が直政に与力させたもので、その強さは戦場で敵に恐れられました。



井伊直政肖像(彦根城博物館/彦根市)

解答… (1)

## 問題52

小牧・長久手の合戦の終結に至った経緯はどのようなことだったのでしょうか？

- (1) 秀吉方の池田常興や森長可ら諸将が討ち死にし、戦いを継続できない状況になった。  
(2) 信長の二男が単独で秀吉と和睦をしたことにより、家康公は戦いの大義を失った。  
(3) 徳川方の拠点である三河に秀吉方の軍が迫ったため、家康公は岡崎城に引き上げた。  
(4) 長期間の滞陣で互いの兵糧が乏しくなってきた。

## 解説

小牧・長久手の戦いで家康公は局地戦で勝利を重ね、戦いを有利に進めていました。その一方で、秀吉は家康公と連合軍を組んでいた織田信雄に和睦交渉を進め成立させてしまいます。戦う大義を失った家康公は戦から手を引きます。しかし信長亡き後、秀吉が天下を狙っている状況下で、家康公の存在感を痛いほど知らしめることとなりました。



小牧長久手合戦図屏風(徳川美術館/名古屋市)

解答… (2)

## 問題53

小牧・長久手の合戦では<sup>きうちせん</sup>局地戦で勝利し、野戦に強い徳川軍を示した家康公でしたが、秀吉側との和睦にあたり、息子を秀吉の養子(人質)として差し出すことになりました。秀吉の<sup>もと</sup>許に送られた家康公の男子は誰だったのでしょうか？

- (1) 二男・<sup>おぎまる</sup>於義丸      (2) 三男・<sup>ちようまつ</sup>長松丸  
(3) 四男・<sup>ふくまつ</sup>福松丸      (4) 五男・<sup>まんちよ</sup>万千代丸

## 解説

戦いでは家康公に勝つことが難しいと悟った秀吉は、家康公との和睦交渉で二男於義丸を自分の養子に迎えました。於義丸は元服すると「羽柴秀康(秀吉の秀と家康の康)」を名乗ります。しかし、秀吉に跡継ぎの子が生まれると今度は<sup>ゆうきげむこようし</sup>結城家に婿養子に出されて結城秀康となりました。秀吉没後は家康公に従って大活躍をし、福井藩の藩主になります。大名になった秀康は、松平姓を復活させて越前松平家の始祖になりました。



結城秀康肖像(知立神社/知立市)

解答… (1)

## 問題54

天正14年(1586)、豊臣政権を樹立しても<sup>じょうらく</sup>上洛をしようとしな家康公に対し、秀吉はどのような手を打ったのでしょうか？

- (1) 尾張付近まで出兵し、家康公に<sup>おど</sup>脅しをかけた。  
(2) 家康公の重臣である石川数正を豊臣方に引き入れ、使者として岡崎に送った。  
(3) 家康公の家臣たちを次々と<sup>じょにん</sup>叙任させ、豊臣側に取り込んでいった。  
(4) 妹を家康公の正室として嫁がせ、さらに母親<sup>とつ</sup>を人質として岡崎に送った。

## 解説

秀吉は、天正14年(1586)の秋に朝廷から豊臣姓を<sup>たまわ</sup>賜り、12月に「関白太政大臣 豊臣秀吉」が誕生したことで政権樹立を果たしました。秀吉は政権運営で大大名の家康公に臣下の礼を取らせることが必要だったので。この年の5月には妹の朝日姫を正室として嫁がせ、さらには<sup>おおまんごろう</sup>実母の大政所まで家康公<sup>じょうらく</sup>上洛の人質として岡崎に送ったのです。



大政所肖像(大徳寺/京都市)

解答… (4)

## 問題55

ついに秀吉にしんか臣下の礼を取った家康公は、大坂城から戻ると、五ヶ国の領国経営をえんかつ円滑に行うため、本拠地を東に移しました。家康公の新しい居城となったのはどこでしょうか？

- (1) 新府城しんぶじょう                      (2) 駿府城しんぶじょう  
 (3) 高天神城                      (4) 沼津城ぬまつじょう

## 解説

家康公はその生涯のうち三度を駿府で過ごしています。一度目は人質として過ごした少年時代11年、二度目は五ヶ国経営のために浜松城から駿府城に支配拠点を移した時代4年、三度目は将軍職を退き、大御所として居住した時代の9年です。家康公にとって五ヶ国経営は平和で安定した国づくりの試金石であったとも言えます。ただ五ヶ国の内、特に甲斐・信濃についてはまだまだ政情不安な状態が続いていたとも考えられ、どこの国にも目を行き届かせられるよう、これらの中心となりうる駿府を拠点にしたと考えられます。



駿府城今川居館跡(静岡市)

## 問題56

天正17年(1589)、五ヶ国の領地を武力に頼らず治めるため、家康公が伊奈忠次に命じ実施した政策はなんでしょうか？

- (1) 刀狩り令かたがれい                      (2) 金山開発きんざん  
 (3) 五ヶ国総検地そうけんち                      (4) 朱印船貿易しゅいんせんぼうえき

## 解説

豊臣秀吉に臣従した家康公は、五ヶ国の経営に専念することができるようになりました。ただこれまでの武力に頼る支配では領民たちの掌握はできません。そこで進めたのが「五ヶ国総検地」です。正しい検地を行うことによって、農業などの生産高や、農民たちの暮らしぶりを正確に把握することができるからです。耕作者を「名請人なうけにん」として土地の所有を定め、年貢を直納させることで旧来の複雑な徴収を廃止しました。さらに農民だけでなく、寺社や小領主毎に検地帳を作成し、隅々まで支配権の掌握に努めたのです。



伊奈忠次像(水戸市)

## 問題57

家康公は、戦乱の時代の税の徴収方法を改め、自国領の郷村社会の安定した統治を進めるため、税の徴収の根拠とすべき、きめ細かい規則を定めました。これを何というのでしょうか？

- (1) 慶安のお触書 (2) 五ヶ国法度次第  
(3) 徳川仮名目録 (4) 七ヶ条定書

## 解説

五ヶ国総検地におけるもう一つ画期的な内容として挙げられるのは、「検地目録」を作成したことです。簡単に言えば、様々な状況を勘案した税の徴収制度です。この根拠にしたのが「七ヶ条定書」と呼ばれる細則で、例えば災害による収穫減に対する考慮、武士による人足などの制限、給金の給付などが記されています。家康公は領民たちに対するきめ細かい政策によって、郷村の掌握を成し遂げて行きました。力を持った者だけが横暴を許される、いわゆる戦乱の世の構造がこうして少しずつ変化していったのです。



七ヶ条定書福徳印(部分/岡崎市)

## 問題58

天正18年(1590)、小田原の役は、小田原の北条氏が天下統一を目前とした関白秀吉のある命令に従わなかったことが原因で起こりました。その命令とは何でしょうか？

- (1) 刀狩り令 (2) 惣無事令  
(3) 太閤検地 (4) 朝鮮出兵

## 解説

豊臣秀吉は政権を樹立したのちに、天皇の名で大名同士の争いを停止する命令「惣無事令」を発令しました。「惣無事」というのは戦を停止するという意味です。足利将軍家でも出された記録がありますが効果はありませんでした。秀吉は天下を手中に収めるための大義としてこの惣無事令を使い、従わない大名たちを征伐したのです。真田氏と争っていた小田原の北条氏に対しては、家康公が秀吉のもとに出仕するよう勧告をしましたが、結局従うことがなかったため、秀吉に攻められる結果となってしまいました。



豊臣秀吉肖像(高台院/京都市)

## 問題59

小田原征伐で戦国大名北条氏は滅亡。家康公にその旧領が与えられ(関東移封)、居城を江戸城に定めます。これまでの北条氏の居城、小田原城を家康公は誰に与えたでしょうか？

- (1) 大久保忠世 (2) 酒井忠次  
(3) 鳥居元忠 (4) 本多広孝

## 解説

家康公は関東移封に伴い、家臣たちを関東の各地に配しました。特に主要街道には重臣たちを置き、江戸に向けての守りの要としたのです。奥州道の要所 館林には榊原康政を10万石で、中山道の要所 高崎には井伊直政を12万石で、さらに下総国大多喜には本多忠勝を10万石で配しました。忠勝は安房の里見氏に対する抑えでもあり、江戸湾に対する備えだったのでしょう。そして最も重要な東海道の要所 小田原には大久保忠世を4万5千石で配しました。家康公の信頼の高さがうかがえます。



大久保忠世墓(大久寺／小田原市)

## 問題60

小田原の役後、関東に移封された家康公は、江戸に入る主要な街道の入り口に重臣を配置しました。家臣団のなかで最も石高の高い、上野国高崎12万石を与えられたのは誰だったでしょうか？

- (1) 井伊直政 (2) 酒井家次  
(3) 榊原康政 (4) 本多忠勝

## 解説

井伊直政は15歳で家康公に出仕してから、家臣団の中では異例の抜擢をされてきた武将です。これはもともと井伊家が古くから続く遠江の名家でもあり、本来ならば独立した大名として、徳川に与力するというような立場であったからですが、今川氏によって没落していたのを家康公に救われて再興を果たしたという恩義もあり、直政は家臣として、終生、忠節に励んだのです。人質に出された大政所への気配りで秀吉からも大変気に入られ、12万石という高禄になったのではと考えられます。



井伊直政木像(龍潭寺／浜松市)

## 問題61

江戸に入った家康公はどのような町づくりをしたのでしょうか？

- (1) 水路や道路の建設など、集住する人々の生活の利便性を考えた。
- (2) 多くの寺社を勧請して建立させ、信仰の町としての発展を考えた。
- (3) 江戸城の周囲に多くの砦を構築し、軍事拠点として整備した。
- (4) 外国人町をつくるなど、国際都市としての発展を考えた。

## 解説

江戸に入った家康公は城の修築の前に、まず人々の居住する町割りを優先して行い、青山忠成などを奉行として町づくりを開始、資材運搬のための道路や水路の建設が行われました。その後、江戸城の本格的な建設に入ると、さらに大規模な水路が開削され、城に向かって整備されていきました。水路の建設は利根川の治水事業とも一体化され、日比谷入江と石神井川を結ぶ「道三堀」、塩田のある行徳と江戸を結ぶ「小名木川」が最初の運河と言われています。現在でも東京の各所にその姿を残しています。



小名木川(東京都江東区)

## 問題62

家康公が江戸に入って以来、争い事も収まり、人々は平和の到来を祝ったと伝えられます。家康公が江戸入りした8月1日は「江戸御打入り」の目出度い記念日として江戸城では祝いの式典が、市中では祭りが行われました。この8月1日の祝日のことを何と呼んでいるのでしょうか？

- (1) 浅草三社祭
- (2) 元和
- (3) 端午祝
- (4) 八朔

## 解説

旧暦の呼び方で月始めの日を「朔日」、月の終わりを「晦日」と言います。したがって八月の始めの日を「八朔」と呼んでいました。家康公の関東移封が決定したのは天正18年(1590)、小田原征伐の時と伝えられます。家康公は八月の朔日を期して江戸に入りました。後に江戸城ではこの日を記念して大名や旗本たちが八朔の儀式を執り行ったという記録が残っています。この儀式はやがて江戸の庶民たちにも祭りとして広がり、家康公の江戸入りで平和が訪れたことを祝うようになったのです。



江戸名所図会「八朔」

## 問題63

秀吉の下、全国統一がなされ、平和が訪れたと思っ  
たのも東の間、文禄元年(1592)、「唐入り」と呼ば  
れる朝鮮出兵が開始されます。家康公も九州まで  
出陣しますが、朝鮮渡海はまぬがれました。家康  
公が翌年まで在陣することになった、九州の前線  
基地はどこだったでしょうか？

- (1) 肥後熊本城 (2) 肥前名護屋城  
(3) 肥前唐津城 (4) 豊前小倉城

## 解説

秀吉は当初は明に対する出兵を考えており、朝鮮国と戦うつもりはなかったと考えられます。したがって「唐入り」と呼ばれていたのです。家康公は国内の安定を最優先課題と考えていましたので、膨大な戦費を要する朝鮮への出兵には賛成しませんでした。肥前名護屋城は秀吉がその最前線基地として築城した大規模な城で、現在でもその跡が残されています。本丸には五層七階の望楼型天守がそびえていました。家康公は文禄の役では出陣し、「竹の丸」という曲輪に陣所を設けていましたが、朝鮮国に渡海することはありませんでした。



名護屋城模型(佐賀県立名護屋城博物館)

## 問題64

文禄2年(1593)、家康公は九州在陣中に儒学者の  
藤原惺窩を招き、唐の皇帝太宗の政治論などを集  
めた書物の講義を行いました。何という書物だっ  
たでしょうか？

- (1) 三国志演義 (2) 史記  
(3) 四書五経 (4) 貞観政要

## 解説

「貞観政要」は唐の太宗の政治に関する優れた言行録であり、優れたリーダーを育成するための教科書とも言えるものです。太宗は「貞観の治」と呼ばれる、平和で安定した社会を実現する政治を行いました。リーダーとしての言行も優れていますが、何よりも周囲の人々の意見に耳を傾け、「諫官」と呼ばれる臣下を置いて自らを戒めたと伝わります。藤原惺窩は近世儒学の祖と言われる儒学者で、特に家康公に請われこの「貞観政要」を講じました。家康公はこの時にはすでに新しい時代を担う武士たちの心構えを学ばせていたのです。



藤原惺窩肖像  
(東京国立博物館)



## 問題65

家康公が新しい平和な国を建設しようとする中で、武士たちに求めた考え方が記録に残されています。次の空欄に当てはまる言葉は何でしょうか？

「武道の要は( )を討つにあり—(中略)—戦を挑むは無用の事也」

- |        |        |
|--------|--------|
| (1) 異国 | (2) 夷敵 |
| (3) 己  | (4) 無道 |

## 解説

「武道の神髓は得易すからず」(『家康公教訓録・井上正就の記録より』)という言葉の

意味は、「武道そのものの本質を体得することは難しいものだ」ということです。特に戦乱が収まった社会での武道について「武道の要は無道を討つにあり」と述べています。「武道の大切なことは、人々が安心して生活ができるように、『無道＝道から外れた悪』を討つことである」と説いた言葉です。家康公は人々の暮らしを守るための武士たちの姿を、新しい時代のあべき姿として説いたのです。



家康公の教えを生かした本多忠勝遺言「惣まくり」(小柳津要人書/岡崎市)

解答… (4)

## 問題66

前問に見られる考え方は、家康公が藤原惺窩から学ぼうとしたことでした。儒教の中でも特に「人の道の正義」を重んじるこの学問を何と呼んでいるのでしょうか？

- |         |          |
|---------|----------|
| (1) 易学  | (2) 古文辞学 |
| (3) 朱子学 | (4) 陽明学  |

## 解説

家康公が自ら学び、家臣たちにも盛んに学ばせた儒学には、定義する内容の違いによって、「朱子学」「陽明学」「古学」などに分けて考えることができます。これらの中でも「正義」を最も重んじた学問が朱子学でした。朱子学は中国が南宋と呼ばれた時代(日本では鎌倉時代)、朱熹によって提唱された学問です。中国では程朱学と呼ばれ、もともと人に備わった「理」を重んじた学問で、親子や君臣、夫婦、兄弟、友達などの間の「仁・義・礼・智・信」を五つの徳目として大切にしました。家康公は新しい時代に最も必要な学問と考えたのです。



朱熹肖像

解答… (3)

## 問題67

九州から江戸に戻った家康公は、江戸城でも藤原惺窩の講義を受け、幕府の侍講(教育者)になるよう求められますが固辞されました。代わりに惺窩の弟子が後に幕府の侍講となります。それは誰でしょうか？

- (1) 新井白石 (2) 石川丈山  
(3) 荻生徂徠 (4) 林羅山

## 解説

林羅山は天正11年(1587)に京都で生まれました。13歳で建仁寺に入り仏教を学びますが、15歳で下山した後は儒学に没頭します。特に朱子学に傾倒し、読んだ書物は400冊以上に及びました。そのような時、22歳で藤原惺窩と出会い、さらなる薫陶を受けたのです。慶長10年(1605)、藤原惺窩の推薦で家康公に謁見、23歳の若さで幕府の侍講となります。以来、將軍のブレーンとして活躍、江戸湯島に聖堂(孔子廟)を建て、特に朱子学を幕府の官学として発展させました。この湯島聖堂が後に昌平黌となり、東京大学の前身となったのです。



湯島聖堂(東京都文京区)

## 問題68

文禄3年(1594)、家康公の三男秀忠は秀吉の側室淀殿の妹である小督(お江、お江与の方)と秀吉の命令により結婚します。小督の父親は誰だったのでしょうか？

- (1) 明智光秀 (2) 浅井長政  
(3) 織田信長 (4) 千利休

## 解説

近江の戦国大名 浅井長政には、信長の妹である正室 お市の方との間に三人の娘がいました。長女は後の淀君、二女は京極高次の妻 お初、そして三女が後の二代將軍 秀忠の正室 小督です。三人は敵味方に分かれるなど、大変数奇な運命を辿ります。長女の淀君は父の長政や母お市の方の菩提を弔うため、秀吉に頼んで京に「養源院(長政の法名)」を創建しました。しかし大坂の陣で悲劇的な最期を遂げると、後に養源院も火災で焼失したため、今度は小督が秀忠に頼んで再建します。以来、養源院は徳川將軍家の菩提寺となりました。



養源院(京都市)

## 問題69

慶長元年(1596)、正二位内大臣に進んだ家康公は内府と呼ばれるようになり、武家政治を学ぶため、山科言経から「吾妻鏡(東鑑)」の講義を受けていますが、これはどのような内容の書物でしょうか？

- (1) 奥州藤原氏の事績を記した歴史書
- (2) 源頼朝と鎌倉幕府の事績を記した歴史書
- (3) 足利尊氏と室町幕府の事績を記した歴史書
- (4) 源氏と平氏の興亡を記した歴史書

## 解説

吾妻鑑は鎌倉幕府成立のころ初代将軍源頼朝から六代将軍宗尊親王の時まで、およそ60年にわたる事績を編年体で編纂した歴史書です。頼朝の時代の記録はエピソード的な内容も多く、家康公は好んで読んだと伝えられます。慶長元年(1596)に山科言経を呼び寄せ講義を受けましたが、家康公はこの本をより多くの武士たちに読ませるために、慶長10年(1605)に西笑承兌(家康公の政治顧問)に命じて伏見の円光寺で木版の活版印刷をさせたほどでした。



西笑承兌肖像  
(大阪城天守閣／大阪市)

解答… (2)

## 問題70

慶長3年(1598)、秀吉が亡くなると、亡くなったことは秘したまま、家康公が直ちに命じたことがあります。それは何だったのでしょうか？

- (1) 秀吉の遺児である秀頼への忠誠を誓う誓詞の提出
- (2) キリスト教の禁止と教会の破却
- (3) 豊臣恩顧の大名どうしの婚姻の禁止
- (4) 朝鮮からの即時全面撤退

## 解説

秀吉による二度の朝鮮出兵は、朝鮮国の人々のみならず、出兵した日本の兵たちも大変苦しみました。家康公は二度目の慶長の役については強く反対をしました。秀吉に「何故出陣しないのか」と尋ねられた時、「箱根は誰が守るといのですか」と答えたと言えられます。「秀吉の収めたこの国をだれが守るといのか」と捉えるのが自然でしょう。家康公はその言葉どおり、秀吉の死後すぐに朝鮮から兵を引き揚げさせ、明国を巻き込んだ大きな戦争を回避したのです。



東萊城の戦絵図(文禄の役)

解答… (4)

## 問題71

秀吉の死後、豊臣政権は<sup>ごたいりうごぶぎょうごうぎせい</sup>五大老五奉行の合議制に移行します。秀吉の<sup>ゆいごん</sup>遺言により、大老の家康公に命じられたことは何だったのでしょうか？

- (1) 秀頼が成人するまで、伏見城<sup>ふしみ</sup>にて政務をとる。
- (2) 傅役として、大坂城<sup>こうけん</sup>にて秀頼の後見をする。
- (3) 五奉行を監督し、京・大坂の治安を保つ。
- (4) 秀頼の代役として、<sup>みんこく</sup>明国および朝鮮国との和平を結ぶ。

## 解説

五大老の<sup>しゅざ</sup>首座は前田利家ですが、彼には幼い秀頼の後見役を任せ、政治向きのことは全て家康公に任せました。利家は秀吉とほぼ同年、高齢となり病気がちであったためとも考えられます。家康公は伏見城で政務に当たりますが、特に家康公の台頭を危険視した石田三成を中心とする五奉行たちは利家に近づき、家康公の動きをけん制しました。しかし程無く利家が病死すると、三成に反感を覚える豊臣大名たちが立ち上がり、関ヶ原の合戦へとつながっていくのです。



前田利家肖像(個人蔵)

解答… (1)

## 問題72

慶長4年(1599)、五大老の一人前田利家<sup>ままだとしいえ</sup>が亡くなると、加藤清正<sup>かとうきよまさ</sup>はじめ豊臣恩顧<sup>ぶだんは</sup>の武断派7将<sup>ひつとういしだみつなりおそ</sup>が五奉行筆頭の石田三成<sup>いしだみつなり</sup>を襲おうとしますが、三成は家康公の許に逃れてきます。家康公は三成をどうしたのでしょうか？

- (1) 八丈島<sup>はちじょうじま</sup>に流刑とした。
- (2) 薩摩<sup>さつま</sup>の島津家<sup>しまづけ</sup>に預け謹慎<sup>あずきんしん</sup>させた。
- (3) 居城<sup>おうみ</sup>の近江佐和山城<sup>さわやま</sup>に蟄居<sup>ちつきよ</sup>させた。
- (4) 伏見<sup>ふしみ</sup>の石田屋敷<sup>やしき</sup>に送り届けた。

## 解説

前田利家を頼り、反家康勢力を糾合しようと<sup>かくさく</sup>画策していた石田三成でしたが、利家が没すると今度は三成に反感を覚える福島正則や加藤清正、黒田長政ら七名の武将たちが三成を襲う計画を立てました。三成は密かに大坂城を脱出し、伏見の家康公を頼ったのです。家康公は三成を匿い、押し掛けた七名の武将たちを追い返しました。そして事態が大きくなる前に<sup>おうみ</sup>自領の近江佐和山<sup>ちつきよ</sup>(彦根市)で蟄居するよう三成を説得し、結城秀康を警護につけて佐和山城まで送り届けたのです。



石田三成像(彦根龍潭寺/彦根市)

解答… (3)

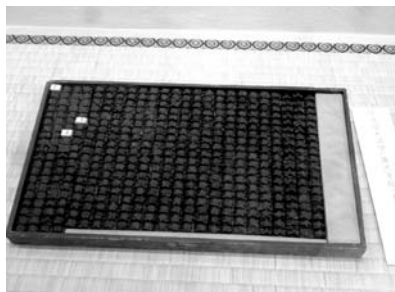
## 問題73

同年、家康公は文治国家への移行を思い、日本初の本格的な活字出版を行いました。このときの本をなんといいのでしょうか？

- (1) 金澤文庫 (2) 蓬左文庫  
(3) 駿河版 (4) 伏見版

## 解説

家康公は伏見城で政務に当たっていましたが、この時に関東の足利学校に倣って伏見学校を創設、ここで儒教に関する学問を学ぶようにしました。その敷地内に円光寺を創建し、ここで孔子の教えに関する書の木版印刷を始めたのです。慶長4年(1599)には『六韜』や『三略』などの兵法書をはじめとして『孔子家伝』の三冊を印刷しました。さらにその後も『貞観政要』や『吾妻鑑』などを出版、新しい時代の武士たちの学問を支えていきました。後に、駿府で銅板印刷も手掛けるようになり(駿河版)、膨大な書籍が残されることになったのです。



伏見版「版木」(円光寺／京都市)

解答… (4)

## 問題74

慶長5年(1600)3月、関ヶ原の合戦の半年前、緊迫の時代にオランダ船リーフデ号が九州豊後に漂着しました。生き残った外国人乗組員は大坂城に連れて来られ、五大老筆頭家康公に謁見しました。家康公はどのような処置をとったのでしょうか？

- (1) 不穏な空気の情勢下であり、城内の牢にとどめ置いた。  
(2) 国内不穏な今、イエズス会の通訳の意向を重んじて処刑した。  
(3) 江戸に送り、じっくりと世界情勢に耳を傾けた。  
(4) 壊れた船を改修し、ただちに彼らをそれぞれの本国に帰した。

## 解説

このリーフデ号に乗船していたのが、イギリス人航海士のウィリアム・アダムスとオランダ人航海士のヤン・ヨーステンでした。イエズス会の宣教師たちは彼らの処刑を要求しますが、家康公はこの二人からの話に興味を持ち、江戸に送って自分のもとに出仕させます。二人は世界やアジア諸国の情勢や西洋の進んだ造船技術について話し、家康公はこの二人に屋敷や石高を与え召し抱えたのです。アダムスは三浦按針と名乗り、実際に西洋船を建造しました。



三浦按針肖像(伊東市)

解答… (3)

## 問題75

同年6月、家康公は会津討伐の命令を諸大名に発します。石田三成と手を結び、世を乱そうとする会津若松城主(五大老のひとり)は誰でしょうか？

- (1) 上杉景勝 (2) 宇喜多秀家  
(3) 前田利長 (4) 毛利輝元

## 解説

佐和山城に蟄居をしていた石田三成は、主に西国大名たちに手紙を送り付けて反徳川の狼煙を上げます。五大老の一人である会津上杉景勝の家老直江兼続もこれに同意しました。景勝の不穏な動きに、家康公は再三書簡を送り上洛するように求めますが、兼続からの返事は無礼極まりないものでした(「直江状」)。家康公を挑発したのです。家康公はその挑発に乗るかのように、豊臣秀頼の名で大名たちに会津征伐の命令を下し、自ら全軍を率いて大坂を後にしました。関ヶ原の合戦は全国の大名たちを巻き込んだ戦いとなりますが、きっかけは三成と直江兼続が作ったと言えます。



直江兼続像(長岡市与板)

解答… (1)

## 問題76

諸将が会津に向け出発すると、三成らは大坂城に挙兵し、家康公の家臣が守る伏見城を大軍で攻めて落城させます。玉砕した伏見城の守将は誰だったのでしょうか？

- (1) 大久保忠世 (2) 奥平信昌  
(3) 鳥居元忠 (4) 平岩親吉

## 解説

天下統一をかけた「関ヶ原の戦い」の前哨戦となったのが伏見城の攻防です。これは家康公が会津征伐のために大坂と京を空にしたのを見計らって石田三成が挙兵し、伏見城を取り囲んだことから起きました。守将の鳥居元忠は伏見城に立ち寄った家康公に、一騎でも多くの家臣を率いてこれからの大切な戦いに臨むよう諫言します。そして自らは、石田三成の大軍を相手に、少ない兵力で戦いました。「家忠日記」の著者松平家忠や、弓の名手として知られた内藤家長も元忠と共に戦って討死しています。壮絶な彼らの最後は、先祖の代から徳川家を支えてきた三河武士の姿そのものでした。



伏見城で戦死した武士たちの血の跡「血天井」(源光庵/京都市)

解答… (3)

## 問題77

伏見城陥落の知らせを受けた家康公らはかんらく小山(栃木県小山市)で会議を開き、引き返して三成らと戦うことを決定します。この後の「関ヶ原」での東西決戦が起きた元々の要因はどのようなことだったのでしょうか？

- (1) 豊臣秀吉の政治に不満を持つ武将が多かった。
- (2) 武断派ぶだんはと吏僚派りりょうはに分かれての豊臣家臣たちの内部抗争。
- (3) 毛利輝元と家康公の実権争い。
- (4) 秀頼の養育を巡っての淀君と家康公との対立。

## 解説

豊臣政権内部では、福島正則をはじめ黒田長政や細川忠興、池田輝政、加藤嘉明など、その多くが合戦の武功によって成長してきた「武断派」と呼ばれる武将たちと、石田三成や増田長盛、長束正家などの政治的な手腕を買われて成長した「吏僚派」と呼ばれる武将たちの間で内部対立があり、この対立が関ヶ原の合戦を引き起こしました。小山評定では福島正則の一言で諸将が結束、東軍が形成されたのです。



福島正則肖像(高井寺／長野県高山村)

## 問題78

関ヶ原の合戦で、東軍の豊臣大名らを出し抜いて先陣を切り、徳川の戦いであることを印象付けた徳川四天王の一人は誰でしょうか？

- (1) 井伊直政
- (2) 酒井忠次
- (3) 榊原康政
- (4) 本多忠勝

## 解説

関ヶ原の合戦は、家康公が東軍の大將であったものの、もともと豊臣内部の抗争から起きたものでしたから、福島正則や黒田長政などの豊臣大名たちが中心となって戦う形になっていました。しかし、合戦が始まろうとしている時に、家康公の四男 松平忠吉を伴った井伊直政が、先陣を切る予定であった福島隊を出し抜き戦を仕掛けたのです。このことで「徳川の戦い」であることを印象付けることができ、家康公も喜んだと伝えられます。直政や本多忠勝といった徳川の武将たちも大活躍をし、戦を勝利に導いたのです。



松平忠吉肖像(徳川美術館／名古屋市)

## 問題79

慶長5年(1600)9月15日、東西両軍、天下分け目の関ヶ原決戦はわずか半日あまりで決着がつけました。この戦いは単に大規模な戦いと言うだけでなく、ここから江戸太平時代への道が開き、日本現代史の起点ともなる転換の一瞬でした。家康公は、この日から大坂の陣で豊臣家の存在に最終決着を付けるまで、何年の歳月をかけたのでしょうか？

- (1) 半年 (2) 5年  
(3) 10年 (4) 15年

## 解説

岡崎公園の家康公像は、関ヶ原合戦直後の姿を表したものです。天下を手中に収めた時の姿にしては厳しい表情をしています。家康公にとってはこれからが大仕事であると自身を戒めていたのでしょうか。この時からすでに貨幣政策、外交政策、流通政策と戦乱の社会を根底から作り変える仕事に取りかかっていた。そして大坂の陣で戦国の終焉、15年の年月を費やしたのです。



徳川家康公像(岡崎公園)

## 問題80

戦後、家康公は西軍に味方した80数家の大名から領地を没収し、東軍に味方した諸将に配分しました。家康公から多くの加増を受けたのは次のどのグループでしょうか？

- (1) 徳川、松平一門  
(2) 三河、遠江、駿河時代からの家康公の家臣団  
(3) 豊臣恩顧の大名  
(4) 豊臣秀頼とその家臣

## 解説

下の表が合戦後に加増された大名の一覧です。10万石以上加増された大名は16家ありましたが(単位万石)、徳川関係では結城秀康と松平忠吉の2家にとどまっています。豊臣大名たちは、大幅な加増と引き換えに家康公を天下人として認めたのです。

1	結城秀康	47.1	9	加藤清正	27
2	松平忠吉	42	10	田中吉政	22.5
3	蒲生秀行	42	11	細川忠興	21.9
4	池田輝政	36.1	12	浅野幸長	21.7
5	前田利長	36	13	小早川秀秋	15.3
6	黒田長政	34.3	14	山内一豊	13.3
7	最上義光	33	15	藤堂高虎	12.3
8	福島正則	29.8	16	加藤嘉明	10



## 問題81

流通経済の発展と安定を考え、関ヶ原合戦以前から、家康公が行おうとしていた貨幣政策とはどのようなことだったのでしょうか？

- (1) 明銭である永楽通宝を正式な貨幣として使用する。
- (2) 質の悪い私鑄銭と良質の明銭を選分け、私鑄銭の使用を禁止する。
- (3) 中国からの輸入銭ではなく国産の通貨をつくり流通させる。
- (4) 金や銀を通貨として使用できるようにし、銅銭を廃止する。

## 解説

家康公の行った最も重要な事業の一つに「国産通貨の鑄造」が挙げられます。これまで国内で流通していた通貨は永楽通宝など中国からの明銭でした。通貨の量は一定せず、正常な商取引の阻害要因の一つだったと言えます。家康公は金銀銅を使用した本格的な国産通貨を鑄造し、安定した経済を確立しようと考えたのです。そのために盛んに金山や銀山、銅山の開発を行い、江戸に金座、伏見に銀座を創設して小判や丁銀などの通貨を鑄造しました。



江戸金座絵図(日本銀行資料館)

## 問題82

慶長5年(1600)、関ヶ原の戦いに勝利した家康公は全国の街道の整備を始めますが、その皮切りとなったのはどこでしょうか？

- (1) 奥州街道
- (2) 甲州街道
- (3) 東海道
- (4) 日光街道

## 解説

家康公は天下を統一すると、江戸への流通網の整備から手がけました。そのために整備を急がせたのが「東海道」「中山道」「甲州街道」「日光街道」「奥州街道」の五街道でした。このうち最も早く整備に着手したのが東海道です。土木面での整備は、道幅の拡張や松などの樹木の植栽、街道沿いの町屋の形成、河川改修、架橋工事などが挙げられます。天竜川については、『東遷基業』に「浮橋」を架けたと記されています。家康公が大坂の陣に向かう時に架けられたもので、奉行の彦坂光正が出した「殿が渡るまでは誰も渡すな」との指示に、「行人(通行人)が通らずして何のための橋であるか」と叱ったとも記されています。



東海道五十三次「見附天竜川」(歌川広重)

## 問題83

家康公が<sup>えんかつ</sup>円滑な流通を目指して主要街道に設置したものは何でしょうか？

- (1) 宿駅と伝馬制 (2) 関所と陣屋  
(3) 茶屋と旅籠 (4) 灯笼と松並木

## 解説

街道整備のもう一つの重点は、物流が円滑に行われ、人々が安全・安心に街道を往来できる設備の整備でした。古来から存在していた宿駅を整備し、およそ三里毎に宿場町を造成、歩いて半日程度の場所に宿泊施設を伴った新たな宿駅を設置したのです。さらに公用の荷物を運ぶためだけに用意されていた<sup>にんそく</sup>人足や馬を、一般の人でも利用できるように定め、宿駅ごとに交代して荷物を運ぶように整備しました。これを「人馬継立」と呼び、伝馬の制度が確立されたのです。これらを総称して「宿駅伝馬制度」と呼び、「駅伝」の語源ともなりました。現在でも、各地の旧宿場町の多くに「伝馬町」の名が残されています。



東海道五十三次「藤枝」(歌川広重)

## 問題84

家康公が、外国との交易を進める上で重要と考えた課題です。次のなかで当てはまらないものはどれでしょうか？

- (1) 日本の近海で海賊行為を働く「倭寇」の解体。  
(2) ポルトガルによる「生糸取引」独占の解消。  
(3) アメリカとの不平等な貿易関係の改善。  
(4) 朝鮮出兵による明国や朝鮮国との国交回復。

## 解説

日本は16世紀の半ばに鉄砲やキリスト教が伝わり、ようやくポルトガルやスペインとの交易が始まりました。しかしポルトガルが中国産生糸の貿易を独占するなど、日本にとっては不利な交易を強いられます。さらに秀吉の朝鮮出兵によって、中国や朝鮮国との国交も断絶。家康公はこの閉塞的な局面の打開に糸割符制度を設けたり、朝鮮国との対話を始めるなどの外交政策を行いました。アメリカはこの時代にはまだ建国されていませんでした。



糸割符証書

## 問題85

秀吉による朝鮮出兵の後を受けた家康公は、伏見で朝鮮国義僧兵のリーダーであった松雲大師との会談を実現させ、「文をもって武に報いる」見事な外交で、善隣友好外交展開の起点となりました。その結果、江戸時代を通じて12回の「朝鮮通信使」が来日し、両国の文化交流が深まりました。さて、この朝鮮通信使の「通信」とはどのような意味でしょうか？

- (1) 朝鮮国と定期的に連絡(通信)を取り合うという意味。
- (2) 家康公との会見の中で出た「信を通わせる」という意味。
- (3) 家康公との会見の中で出た「通い合うことを信じる」という意味。
- (4) 朝鮮国との関係が永遠に通じ合うようにという意味。

## 解説

総勢300人とも400人とも伝えられる通信使は、日本の各地に朝鮮国の伝統や文化を残し、朝鮮出兵の傷跡を回復させるものとして歴史上特筆すべきものとも言えます。家康公は松雲大師との会見で「信を通わせ詔を請う」と述べ、善隣外交の起点だったのです。



松雲大師肖像(韓国)

## 問題86

慶長8年(1603)、家康公は征夷大將軍に任じられ、江戸に幕府を開きますが、2年後、三男の秀忠に將軍職を譲ります。2年で將軍を譲った理由はなんだったと考えられるでしょうか？

- (1) 当時としては高齢の62歳で、將軍の激務に耐えられなかった。
- (2) 腹部の腫瘍で療養が必要だった。
- (3) 將軍職は徳川家の世襲ということを示し、世の中を安定させるため。
- (4) 出家して徳川のために亡くなった者の菩提を弔うため。

## 解説

家康公が將軍職を秀忠に譲ったことは豊臣方にとって衝撃的な出来事でした。生前、秀吉と約束していた秀頼への政権移譲が絶望的となったからです。しかし、関ヶ原合戦の結果、敗軍の武士たちが不穏な動きをしていたことや、国内外の問題が山積している中で、政治力のない秀頼にリーダーを任せることはできません。家康公はそれでも秀頼を右大臣の官位につけ、將軍と同等な地位をもたらしました。豊臣方はこれに納得し、以後も「公儀」としての立場をとることができたのです。



豊臣秀頼肖像(養源院/京都市)

## 問題87

慶長8年(1603)、将軍となった年に、家康公の最後の男子、十一男頼房よりふさが生まれます。この頼房よりふさと九男義直よしなお、十男頼宣よりのぶの後の御三家ごさんけ3人たんじょうが誕生した城はどこでしょうか？

※義直については異説もあります。

- (1) 江戸城 (2) 駿府城  
(3) 二条城 (4) 伏見城

## 解説

家康公が過ごした場所について、関ヶ原の合戦前はほとんど伏見城で政務をとっており、江戸での在城は少なかったと考えられます。さらに、将軍宣下せんげを受けた時も、家康公は朝廷への参内さんだいや、大坂城の秀頼に年頭の挨拶、さらには孫娘千姫の婚礼のためにも伏見城にいました。家康公が江戸城にいたのは僅わずかであり、翌年もほとんどを伏見城で過ごしています。これは朝廷への様々な働きかけや、大坂城の秀頼に対する配慮などもあったためでしょう。晩年、子供たちが伏見城で誕生したことも頷うなづけますね。



家康公時代の伏見城(洛中洛外図)

## 問題88

慶長10年(1605)、将軍を退しりぞいた家康公は、何とよ呼ばれるようになったのでしょうか？

- (1) 大御所おおごしよ (2) 大旦那おおだんな  
(3) 神君しんくん (4) 太閤

## 解説

大御所という呼び方は、家康公が初めてではありません。古来より親王が隠居した時の御所のことを指して呼ばれたものですが、後に足利将軍家でも隠居した前将軍を大御所と呼んでいました。家康公もそれに倣ならったと考えられますが、隠居した後も幕府の政治を分担し、大きな権力を持って内外の政務を執り行っていたので(大御所政治)、影の権力者というような意味合いで用いられることにもなりました。この大御所政治では、経済・外交・教育・宗教などの分野で多くのブレーンを採用し、家康公が目指す安定した平和な国家づくりが進められたのです。



大御所時代の駿府城模型

## 問題89

右の写真は、慶長16年(1611)、家康公が受け取り、久能山東照宮に残されていた家康公愛用の洋時計です。誰からどのような理由で贈られたものでしょうか？

- (1) スペイン国王から日本との通商開始記念に贈られた。
- (2) スペイン国王から難破船救助のお礼に贈られた。
- (3) オランダ国王から平戸商館開設のお礼に贈られた。
- (4) イギリス国王からウィリアム・アダムス救出のお礼に贈られた。

## 解説

久能山東照宮には、慶長16年(1611)、スペイン国王フェリペ3世から徳川家康公に贈られた西洋時計が神宝として残されています。これは慶長14年(1609)7月、スペイン船が千葉県沖で座礁した際、村民たち総出の救援によって多くの命が救われたお礼に、国王から贈られたものだったのです。



スペイン国王より贈られた洋時計  
(久能山東照宮史料館蔵)

## 問題90

泰平の世を築くためには、豊臣家を凌駕し、その権威を超えていく必要がありました。秀頼の母淀殿は徳川幕府に従う気配はなく、ついに慶長19年(1614)、大坂の陣、勃発。2ヶ月後に一旦は講和がなったものの、豊臣方は大坂城からの移封や牢人の放逐に応じず、74歳となった家康公は、19歳のときに志した生涯の宿願を果たすべく、最後の戦いを決意します。大坂城に豊臣家が滅んだ、戦国最後の戦いとは次のどれでしょうか？

- (1) 大坂春の陣
- (2) 大坂夏の陣
- (3) 大坂秋の陣
- (4) 大坂冬の陣

## 解説

大坂の陣について、秀頼が成長した暁には政権を委譲するという約束を守らなかったということ、家康公を良からざる人物として捉えるのは余りにも短絡的です。秀頼と淀君に、果たしてこの困難な時代を整えていくだけの力量があったのでしょうか。一度は訪れた平和がまた戦乱の社会に戻ることを防ぐため、家康公は最後の戦い「大坂夏の陣」で豊臣氏を滅ぼしたのです。



大坂の陣屏風(部分)(大阪城博物館)

## 問題91

慶長20年(1615)、大坂の陣を終え、戦国乱世を平定した家康公は元号を「元和」と改め、平和な時代の武士のありかたを示すため、二代將軍秀忠の名で「武家諸法度」を発令しました。その第一条にはどのようなことが書かれているのでしょうか？

- (1) いくら大名と言っても勝手に他人の土地を奪ってはならない。
- (2) 武士は常に武芸に励むことが大切である。
- (3) 武士は常に学問と武芸に励み、専らその道に邁進すること。
- (4) 源頼朝の時代から代々同じように幕府の法に従うこと。

## 解説

「一、文武弓馬の道、専ら相嗜むこと」武家諸法度冒頭の部分です。戦乱時代での武士の本分は、戦いに勝ち敵の首を獲ることでした。文民として人々の暮らしを良くしようとするのは武士の本分ではなかったのです。家康公は新しい時代の武士のあり方を「文を以て武に報いる」と考え、争いのない時代を治めていく基本としたのです。



武家諸法度元和令(金地院/京都市)

## 問題92

家康公は死後に新たな泰平な時代を見守る神となり、日本各地に家康公が祀られる東照宮が建立されました。神になった家康公に名づけられた神号は何でしょうか？

- (1) 大御神
- (2) 大権現
- (3) 大天神
- (4) 大明神

## 解説

家康公が残した遺言の一部に「関八州の鎮守」となるという言葉がありました。「死後も日光山から関八州の鎮護をするぞ」という家康公の思いが、日光東照宮の建立につながったのです。関八州鎮守の神としての「神号」について、梵舜(豊国神社の社僧)の主張する「大明神」と天海の主張する「大権現」が候補となりましたが、大明神は豊臣秀吉の神号でもあったので、大権現に定まったと伝えられます。さらに関八州鎮守ということから「アズマテラス」―「東照」という神名が選ばれ、家康公は神としての「東照大権現」と呼ばれるようになりました。



天海像(喜多院/川越市)

## 問題93

日光東照宮の装飾には想像上の動物も多く登場します。その中で、78体が確認されている動物で、天下泰平、軍縮の象徴であり、平和への強い願いが込められていると言われるのは何でしょうか？

- (1) 唐獅子 (2) 麒麟  
(3) 獏 (4) 龍

## 解説

これは困難な問題です。正しい答えは「獏」ですが、どれも天下泰平の象徴と考えることができるため、今回はすべて正解としました。日光東照宮の解説では、獏は鉄を食うという想像上の動物で、鉄砲を食うということから「天下泰平、軍縮の象徴」と考えられています。唐獅子は陽明門の梁と梁が重なる木鼻の部分で彫刻されています。百獣の王でもあり魔除けの意味合いがあります。麒麟も古来中国で聖獣とか瑞獣とも言われ、家康公が創った平和を守る意味合いもあると考えられます。龍については古来より四神の一つであり、これも国家を守る象徴として彫刻されているのでしょう。



獏の木鼻(日光東照宮陽明門)

解答… (1) (2) (3) (4)

## 問題94

「立派な君主とはいかなるものか」との家康公の問いに、林羅山は中国の兵法書「六韜」にもとづき、どのような君主と答えたのでしょうか？

- (1) 不正のない税の徴収をする君主  
(2) 家臣の話に耳を傾け、的確な命令を下す君主  
(3) 武術の鍛錬に励み、家臣の手本となる君主  
(4) 天下を独り占めせず、民のために政治を行う君主

## 解説

「天下は一人の天下に非ず 天下は天下の天下なり」。家康公遺言の有名なくだりです。この文言は、林羅山との問答から得たもので、「六韜」(中国の兵法書のひとつ)に記されています。味わい深いこの言葉の意味を家康公はどのような思いで残したのでしょうか。危篤状態の床にいる家康公が、枕元に外様の有力大名を呼び話したとされています。「將軍の政道が理に適っていなければ誰でもいつでもその任を変わりなさい」と言い切る家康公からは、人々の平和な暮らしを願い続けるという強い意志が窺えます。



家康公遺言碑(岡崎公園)

解答… (4)

## 問題95

遺言<sup>ゆいごん</sup>の有名な一節<sup>いっせつ</sup>、「天下は一人の天下にあらず、天下は天下の天下なり」は、家康公<sup>つか</sup>が掴んだリーダーのあり方を伝える名言です。この言葉の奥にある思想は、次の中から選ぶとしたらどれでしょうか？

- (1) 所有欲<sup>しよゆうよく</sup>こそ争いの種<sup>たね</sup>
- (2) この世には何十億人がある
- (3) 地球は天と地からできている
- (4) 明日は明日の風が吹く

## 解説

家康公は林羅山との問答の中から、君主の思想を整えていきました。戦国乱世を潜り抜け、人間の所有欲こそが争いの種と悟っていきました。山岡荘八著「徳川家康」の遺言<sup>あず</sup>を伝える場面では、「この世のものは、すべて預かりもの」と言い、無所有の境地に至って人間 徳川家康公の辿り着いた道としています。



徳川家康公像(駿府城公園)

解答… (1)

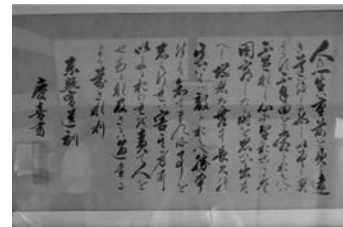
## 問題96

「人の一生は重荷<sup>お</sup>を負うて遠き道を行くがごとし……」、遺訓<sup>いくん</sup>からは心に沁<sup>し</sup>みるような75年の生涯<sup>しょうがい</sup>が伝わってきます。この遺訓を人生訓に活かす例も多く、私たちの生き方に重ねたい言葉です。重荷とは生きる主題、使命、テーマ。家康公の重荷とは何であったのでしょうか？

- (1) 源氏再興<sup>さいこう</sup>
- (2) 戦いのない国づくり
- (3) 貿易による世界への進出
- (4) 武芸<sup>たんれん</sup>の鍛錬

## 解説

「重荷が人をつくる」とは家康公の名言のひとつ。誰も、生きる主題、テーマは重くとも価値ある人生を歩くことになります。家康公の重き荷とは、戦国を終わらせ戦いのない国をつくること。当時の民の総意でもありました。家康公の旗印「厭離穢土 欣求浄土」にその意思が表され、生涯をかけて遠き道を歩き続けました。

徳川慶喜直筆の「東照公遺訓」  
(模写・寛永寺/東京都)

解答… (2)



## 問題97

この家康公検定は、“生誕の岡崎、出世の浜松、大御所の静岡”の家康公ゆかりの3市が連携して実施し、家康公を顕彰してきましたが、他市でも、歴史を背景に都市間交流が行われ注目されてきています。神奈川県横須賀市、静岡県伊東市、長崎県平戸市、大分県臼杵市の4市で家康公のブレンだったある人物のご縁でプロジェクトが立ち上がり、この数年、サミットが開かれています。この人物とは誰でしょうか？

- (1) 大久保長安 (2) 本多正純  
(3) 三浦按針 (4) ヤン・ヨーステン

## 解説

私たちは、岡崎、浜松、静岡の三市が連携して家康公を顕彰しています。ウィリアム・アダマスこと、三浦按針が繫いだ四つの町、大分県臼杵市、静岡県伊東市、神奈川県横須賀市、長崎県平戸市では平成25年から「ANJINプロジェクト」を立ち上げ、歴史に学ぶ町づくり「アンジンサミット」を毎年持ち回りで開催し、交流勉強を志しています。



ウィリアム・アダマス像(伊東市)

## 問題98

今年(2023年)は戦後70年。私たちは戦争のない70年目にいます。明治維新から70年後は昭和13年、軍事色が漂いました。江戸幕府が始まっての70年目はどんな社会だったのでしょうか？

- (1) 4代将軍家綱の頃、文治政治への政策切り替えで社会安定の時代。  
(2) 8代将軍吉宗の頃、享保の改革で質素儉約の時代。  
(3) 10代将軍家治の頃、重商政策で経済が活発な時代。  
(4) 12代将軍家慶の頃、黒船来航で幕末動乱へ向かう時代。

## 解説

日本の大きな転換点となったのは、江戸開府、明治維新、昭和の戦後。太平洋戦争の敗戦から立ち上がり、教育改革、経済復興などを経て、次の選択を求める今は、戦後70年目。同じく転換点であった明治維新から70年目は軍国化の間に迷いました。一方、江戸幕府からの70年目は幕藩体制が確立し、諸藩の文治政治も整う盤石の時代。三代将軍家光から四代家綱の頃です。



大芝居繁栄の図(東京都立図書館)

## 問題99

「神州の<sup>きく</sup>大気<sup>あおい</sup>ぞ菊<sup>きく</sup>に添<sup>そ</sup>う葵<sup>あおい</sup>」  
 岡崎城<sup>てんしゅかく</sup>天守閣<sup>きざ</sup>前に刻<sup>く</sup>まれている句<sup>く</sup>です。生涯<sup>しやうがい</sup>を<sup>へ</sup>経<sup>へ</sup>て<sup>へ</sup>辿<sup>たど</sup>り着<sup>き</sup>いた家康公<sup>きやうこう</sup>の境<sup>きやうこう</sup>地<sup>ち</sup>、平和<sup>へい</sup>理念<sup>り</sup>、その国家<sup>こくが</sup>、江戸幕府<sup>えどまくふ</sup>の国体<sup>こくたい</sup>を象<sup>しやう</sup>徴<sup>ちやう</sup>しているよう<sup>よう</sup>です。句<sup>く</sup>の作<sup>さく</sup>者<sup>しや</sup>は、悲惨<sup>ひさん</sup>な戦<sup>せん</sup>後<sup>ご</sup>、平和<sup>へい</sup>国家<sup>こくが</sup>づ<sup>く</sup>りの主<sup>しゆ</sup>題<sup>だい</sup>として徳川家康公<sup>とくがわきやうこう</sup>の小<sup>せう</sup>説<sup>せ</sup>を世<sup>よ</sup>に著<sup>しやく</sup>しました。この作<sup>さく</sup>者<sup>しや</sup>は誰<sup>たれ</sup>でし<sup>ら</sup>うか？

- (1) 尾崎士郎 (2) 司馬遼太郎  
 (3) 山岡荘八 (4) 山本周五郎

## 解説

太平洋戦争を従軍記者として体験した山岡荘八氏は、これからの日本の平和を考える主題として「小説 徳川家康」を昭和25年から42年まで執筆。何度も岡崎市を取材しています。昭和51年、岡崎市制60周年に市に招かれ、この句を作られ岡崎城天守閣前の山岡荘八文学碑に刻まれました。その2年後にご逝去。句は、江戸幕府の平和国家としての国体を象徴しています。



山岡荘八文学碑(岡崎公園)

解答… (3)

## 問題100

「家康公に学<sup>まな</sup>ぶ」99の設問<sup>ついで</sup>を経て、遂<sup>ついに</sup>に最終<sup>さいしゅう</sup>問<sup>もん</sup>です。応仁元年<sup>おうにんげん</sup>(1467)の応仁<sup>おうにん</sup>の乱<sup>らん</sup>をき<sup>き</sup>っか<sup>け</sup>に戦国<sup>せんごく</sup>乱<sup>らん</sup>世<sup>せい</sup>とな<sup>な</sup>った日本<sup>にっぽん</sup>。その75年<sup>ななごえ</sup>後に産<sup>うぶ</sup>声<sup>こゑ</sup>を<sup>あ</sup>げ<sup>た</sup>家康公<sup>きやうこう</sup>が75年<sup>ななごえ</sup>の生涯<sup>しやうがい</sup>を経て、慶長20年<sup>けいぢやう</sup>(1615)の大坂<sup>おさか</sup>の陣<sup>じん</sup>で戦<sup>せん</sup>いを終<sup>しゆう</sup>焉<sup>えん</sup>させ、悲願<sup>ひがん</sup>の泰平<sup>たいへい</sup>の時代<sup>じだい</sup>を迎<sup>むか</sup>えまし<sup>た</sup>。翌年<sup>ごうきよ</sup>、家康公<sup>きやうこう</sup>薨<sup>こう</sup>去<sup>きよ</sup>。その時<sup>とき</sup>から今<sup>いま</sup>年で400年<sup>しやうひゃく</sup>。家康公<sup>きやうこう</sup>が亡<sup>な</sup>くな<sup>つた</sup>のはいつ<sup>いつ</sup>でし<sup>ら</sup>うか？

- (1) 天文11年12月26日 (2) 天正18年8月1日  
 (3) 慶長5年9月15日 (4) 元和2年4月17日

## 解説

応仁の乱から大坂の陣まで150年間は戦乱に明けくれた、日本の暗黒時代。その後半分の75年が家康公の生涯です。戦国の真ただ中に生まれ、その生涯を生き抜くことが「戦のない国づくり」への道でした。慶長20年(1615)、大坂夏の陣を収めて元号を「元和」と改め、翌年4月17日、薨去されました。亡くなられたのは、元和2年4月17日です。



久能山東照宮家康公墓所(静岡市)

解答… (4)